愛國婦人

愛國婦人會機關

毎月五日二十日發行

一部金参錢　一ヶ月金六錢　半年分参拾六錢　全國無遞送料

廣告料一行六拾錢

本號全部禁轉載

東京麹町區（牛ヶ淵公園）

發行所　愛國婦人發行所

編輯兼發行人　山澤俊夫

印刷人　大久保高明

社說

父母の敎育

植木一本育つるにも、注意せざれば、曲りくねりて、咲くべき花も咲かざるを、この込み入れる人間が、放つて置いて、造作なく育つ氣遣あるべきや、父母たる者の任務豈容易ならんや。然らば若き男女は結婚の際、子供を十分育つるだけの用意ありやといふに、十分は扨おき少しもなく、大方は唯何となく結婚するにて、子の出來たる時、その育て方の下手さ加減唯呆るゝの外なく、貧血に充血の手當をなし、酸き菓物を遠慮なく遣りて、腹をこはし、ひきつけを起さすなど、酷い目に子供は遇ひて、危い所を切り拔けれぱ、仕合せなれど、それが爲に死ぬる者數知れず、泣いても悔んでも後には返らず、畢竟小兒の育て方一通りの心得もなく、やにはに結婚したるの致す所、子に對しても申譯なしといふべし。父母たらん者は、育兒の心得なかるべからず、さらずば結婚せぬがよし、子供は草紙にあらず、なぶり物にあらずと知るべし。

育てる方はそれとして、然らば敎ふることは如何にといふに、育てるよりも一層下手にて、丸て敎へになつて居らぬもの少からず、元來子を敎ふるの資格備はりて後、父母となるのが順序なるに、一向さる準備なくして結婚するより、出來た子供の敎へ方無茶苦茶にて、なつて居らず、父母の言ひ聞かす所矛盾して、何處にしてよいか分らず、偶々一致すれば、惡い方に一致して、子は正直に之を信じ、人の前にて冷汗が出るやうな言動をすることあり、内の子供はそんな育て方はせぬと、折檻し力んで見ても、實際仕たるにて、播いた種が生えたまでのこと、後悔先に立たずとはこのことなり。又父は子の居る前にて、母を叱り飛ばし、輕しむるより、母の威信立たず、母の言ふことを聞かず、一體男は女を叱り輕しむべきものなりなど、父の爲す所を移して、一般婦人に及ぼすに至る。母は母にて喜怒の變化激しく、機嫌よければ、氣味わるきまで子を可愛がり、父にても叱られると、今までの機嫌一變して、癇癪玉を子供に破裂せしむ、時には叱られてばかりは居らず、父の一言に母は五言十言をかへして、喧嘩おッ始めて、模範を子に示す。此の如くして良き子を得んとするは、逆立ちして世界を一周するよりも難しといふべし。

思慮ある父母は即ち然らず、子のなき中は無責任とにはあらねど、見眞似する者もなければ、割合呑氣で居られしも、子があつて見るとさうは行かず、萬事父母を手本とするより、一言一行も忽がせに出來ず、子の手前自ら愼み深くなりて、遂には立派な人間となるものなり、即ち獨り父母、子供を敎育するのみならず、子供また父母を敎育すといふも可なり。今の父母たる者、自らは子のあるだけの父母たるか、又は子を敎育するの資格を備ふる點に於て父母たるかを、十分考へて、子を敎育すると共に、自らを敎育することを忘るべからず。人間は生涯進むべきものなり、唯父母たることが、人間の行止りにあらずと知るべし。

身體の上に日常注意すべき事ども

◎爪の事

遺民子

爪の伸びて黑く爪垢の溜りたるは、實に見苦しきのみならず、衛生上にも害あり、他人に對しても無禮なり。世には小指の爪を伸ばし置けば記憶が善くなるなど道理もなき事を輕信して伸ばし居る者あれども、笑ふべきことなり。支那・朝鮮などにては貴人は爪を伸ばし居る習慣あり、是は一見して勞動せざる上流の人なりといふことを他人に示す爲に伸ばし居るものなりとぞ。甚だ可笑しき事なれども、我國にも是と同じき意味の習慣ありて、上流の人を長袖の身分と稱へ、自分は竪の物を横にもせず、何事も婢僕を使役して辨ずるを旦那らし奥様らしと思へり。自分の手にて出來るとは、成るべく自ら辨ずる樣に心掛くべき事なり。さすれば身體の運動になりて衛生の爲にも宜しく經濟の上にも利益あり。扨自ら働かんとするには爪を伸ばし居ては生爪をおこすなど怪我をする事もあり、殊に婦人は食物の世話するに當り、爪伸びて爪垢溜り居ては甚だ不潔なり。爪の垢を顯微鏡にて驗るときは、多くの細菌發生して、實に氣味惡きものなりといふ。腫物を爪にて探きこはすと、爲に咎めて重くなるとあり、是は爪が害を爲すにはあらず、爪の垢に細菌ありて、其細菌が腫物の内に入りて害を爲すなり。故に醫師・產婆・看護婦などは、常に手を清潔にし爪垢のたまり居らざる樣注意せり。通常の人にても爪を伸ばさゞるやう氣を付けて剪り去り、石鹼をつけ毛拂を用ゐて能く〳〵洗ひ置くべし。

此「ウオーターシュート」の圖は桑港に於て撮影したる者也其設備廣大にして壯觀を極む我が東京勸業博覽會場不忍池畔のものと對照のため玆に掲げつ

◎頭髮の事

頭髮を美しく保つには鬢付油など脂油を用ゐざるべからず。殊に婦人の頭髮は其丈長き故に毛の根より分泌する自然の脂肪のみにては不足なり、依て必ず人工の脂油を以て之を補はざるべからず。されば古より脂油を用ゐて頭髮のあるゝを防ぎしものなり。我國に於て頭髮に脂油を用ゐて起原は詳かならされども、日本靈異記といへる書に、野猪の脂を髮に塗りたる女の事を記しあるを以て見れば、奈良朝の頃には既に用ゐしものと見えたり。其後油綿とて綿に油を浸して、之を頭髮に塗くると行はれ、貞享・元祿の頃には、五味子即ち俗に美軟葛と稱するものゝ蔓を水に浸し、其粘液を盛んに使用したりとぞ。鬢付といふ名の起りしは、寛文年間江戸の町奴など鬢の毛の亂るゝを防がん爲に、蠟燭の蠟の流れたるに、松脂を交ぜて膏に作りて用ゐしが其起原にて其後之に香料を配合して練上げ、遂に結髮に必要のものとなれりといふ。頭髮に用ゐる脂油に香料を入るゝこと漸々盛んになりしが、是は香水・匂袋を用ゐると同樣のことならんも、又一には頭髮はとかく汚れて、臭氣を發し易きものなれば、香料にて之を防がん爲なるべし。元來臭氣を防がんには、他の香氣を以て打ち消さんよりも、根本的に其臭氣を去ると、衛生的の仕方なり。乃ち注意して髮を洗はゞ臭氣を發するものにあらず。頭髮を洗ふには、洗粉・石鹼・玉子いづれを用ゐるも妨げなし。但ソーダの如き甚だしく脂肪分を拔去るものは、髮の爲によろしからず。近頃下山・高橋兩博士の發明になれる、鹽水石鹼といふ洗濯石鹼は、是にて頭髮を洗ひて、速に綺麗に垢もおち、且つ髮のあるゝ虞なしと、實際に用ゐし人々は云へり。

子供の頭髮に毛虱の生ぜし時は、丁寧に親蟲と卵とを一つ〳〵手にて捕去るをよしとす。成るべく藥は用ゐるべからず。虱を殺すほどの劇藥なれば、之を頭に塗くるときは、多少腦に害を及ぼすべし、心すべきことなり。

社告

奥村五百子詳傳　全一册

子爵小笠原長生立案　佐藤正校閲　愛國婦人會編纂

本會の主唱者たる奥村五百子女史の傳記は明治昭代に於ける日本婦人の活動的歷史なると同時に一面は愛國婦人會發達の歷史なり今や本會之が編輯の任に當り材料選擇中につき不日出版の筈なり

尚本書よりして得たる多少の利益は擧げて奥村氏の紀念碑建設の費用に供したく故に可成多數に購入ありたし

發行並に賣捌所　愛國婦人發行所

◎本號には愛知支部總會の寫眞附錄を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

婦人の社會事業に就て

本會評議員　山脇房子

凡そ夫は外を營み婦は内を治むるは古今東西の通義にして、如何に世が文明に進むとも萬世不易の理なることは明かでございます。是れ其性の異る男女兩性を以て社會を形成し、各其適否に應じてその任務を分擔する所以でございます。然るに近來我國女子の社會公共事業に奔走するもの漸く多くなりましたことに就て彼此評する人の言に、主婦が外へ出て、働くことは實に不都合である、やれ車に乘るとかやれ着物を新調するとか少からぬ費用を要するのみならず、家庭の世話は杜撰になるし、時には出先に於て感情の衝突とか多言の失策とかより友人間多年の交誼を害ふことさへあらば誠に迷惑至極てある、寧ろ是迄通り家内に蟄居して子供の世話、婢僕の監督が相當なりと冷罵するを聞きて、實に殘念なことだと存じます。

兎角女子は常識に缺け、判斷力に乏しく感情に制せられ易き所より、稍もすれば己が本務を忘れて事物に熱中し、何事か己の爲さんと欲することある時は朝早くより夜ふくるまて狂奔し、爲に家庭に於ては老人は無聊に苦み、夫は不自由をかこち、子女は母を慕ひて泣き、婢僕は指揮者のなきに當惑する等、其不都合擧げて數ふるとの出來ぬほどでございます。加ふるに虛榮心に驅られて彼此無理なる工面をなすより、財政は困難に陷ると云ふ樣なことが或はないでもなからうかと存じられます。

すべて物事に熱し易きものは又冷むるも易きが常て、つまり斯言ふ種類の人は永續して社會事業に携る資格のない人てすから、寧ろ初めよりたづさはらない方がよろしうございます。かゝる種類の失敗者が續々出て、參りましては、却て後進者の妨害になります。

されば女子は先づ第一に己の本務たる家政整理の事、子女敎育の事業を遺憾なく整へ、家族に不滿不平なるものなき樣注意し、たとへ惡意を以て裏面を窺ふ人ありとも、又如何に惡評を加へんとする人あるも、一の缺點も見出す能はざる樣己の本務を完全して、然る後巧に餘暇を作りて社會事業て盡す人こそ眞に女子たるの本分を守る人て、かくして初めて社會事業に關係る資格ある婦人と申されませう。

主事會席上に於て

明治四十年五月二十三日愛國婦人會本部に於て

男爵　清浦奎吾

此度總會の爲めに出京せられたる諸氏の會同を機として事務打合會を開く事になりまして、私も此席に列し、諸氏と親しく相會する事を得ましたのは誠に喜ばしき事であります。

此會合に於きまして地方支部の事情と從來本部の取り來りし方針とに就き、彼是の打合をなし、意思の疏通が出來ますのは誠に會務を處理する上に就き大に利益ある事と考へます。

本日は別に諸氏に向て演說する考へてもなし、又其考案も御座いませんが、御挨拶旁々一言致します。

抑も本會が生れてより僅々數年の內に如此長足の進步を致しましたのは上總裁殿下を初め奉り會長以下職員及び茲に列せらるゝ方々の御盡力の結果てあると深く感謝する處であります。

孰々考ふるに僅々たる年月間に如此長足の進步を致しましたのは、全く日清戰役と云ふ實物的感動及び日露戰役と云ふ一大動機がありまして、今日を致した譯てあります。之を歷史に徵するも、戰爭は確に物質的進步を促がす動機てあると云ふとは疑ふべからざる事實である。偖今から戰爭當時を追懷して見ると、全く過去の一夢て、平和の今日に於ては、戰爭當時、軍人遺族や廢兵に對して溫たかき同情を寄せられた方々も去るものは遠して、年月の遠ざかるに從ひ、自然其溫かきものも冷かになり、將來は今迄の如く、熱誠を以て活動する事が出來るか如何てあらうか、是等の點は大に憂慮せねばならぬ。又夫れに對する道を講ぜねばならぬ事と考へます。

已に六十有餘萬の會員を有する今日に於て、婦人社會の狀態と、其人口とに比べて見るに、一通りの力で開拓し得らるゝものは開拓し得たりと考へられます。物事は或る速力を以て發達し、或る程度にまて到達すれば、或時機に於ては其速力の遲緩する事をも又其發達力の休止する事をも豫め覺悟せねばならぬものと考へますと、本會の擴張も是迄の如く一瀉一里の勢を以て發展するか如何と云ふ事は大に考ふべき事と思ひます。

故に愛國婦人會の將來は、如何にせば大に發達するかを現時の狀勢に照し大に考慮を要すべき事てある。支部長初め諸君も十分此點には盡力を願ひ、着々會勢の發展を祈る次第てあります。

然るに目下戰役の後を受けて、大に活動せねばならぬ狀態たるに拘はらず事情の通ぜざる地方に於ては、平和の今日左樣に會員を募集し、會費を醵集する事は、不必要てあると云ふが如き、大に誤つた考へを持て居るものがあると云ふ事を聞けり、愛國婦人會の事業は戰時よりも寧ろ却て戰後即ち平和の時に必要なり、救護事業は恆久に涉り其許す限り、懇篤を加ふべきものにして、去る者は日に遠しと云ふ情態に流るべからず。戰時に於ける戰死者遺族に對する慰問軍隊送迎戰歿者の會葬慰問袋送附等は、戰時に於ける本會員たる者の一時的副事業に外ならず。之を以て豈に能事終了したりと爲すべけむや、本會の主たる事業は彼れに在らずして是れに在る。

日英同盟及びポーツマス條約の結果等に因り東洋の平和期すべく、軍事擴張も不急若くは無用に屬するが如く思ふ者もあらむ、大なる侵略的野心家を除くの外雖も平和を欲せざる者はない。萬國平和會議を開催するの案內あれば一國としてこれに反對はない皆贊同いたす、殊に吾大和民族は尙武の氣に富むと雖も最も平和を愛する國民である。然るに列强の形勢はどうてある今日オランダに平和會議か始まつて居るが是れとても武裝したる會議て如此平和會議があるからとて決して世界の平和が保てるものでない。競爭渦中に立つ國家としては常に噴火山の頂に在る考を持て何時破裂するか知れぬと覺悟して居らねばならぬ。所謂治に居て亂を忘れずと云ふ古人の格言を翫味せねばならぬ。愛國婦人會も現在の遺族廢兵のみならず未來に於ける大戰爭を覺悟し。所謂治に居て亂に供する爲め十分其資力の增殖を計る事は決して怠つてはならぬ。

愛國婦人會員は已に六十有餘萬もあれば地方に於ても開拓の出來得る丈けは十分開拓をなし其辛苦の點は推察して居ます。然しながら是迄中田は開拓せられて居るが却て上田には十分鍬を入れて居ない處もある哉に認めます。地方婦人社會の狀勢を見るに中流人の活動は多いが却て上流の人殊に富豪家の婦人中には活動する人が少ない樣に考へます。愛國婦人會の如き溫かにして且つ濃やかなる花の如き美しい慈善事業は盛に奬勵せねばならぬ、然るに地方富豪家の婦人中に存外熱心の人は乏しい多くは主人が其夫人の外出を許さず、夫人自から集會等に出席するを嫌ふの風習が凝結つて居る。地方富豪家の奧には文明の空氣が未だ流通せず中には全くトルコのハレームか支那の翠帳紅閨中と同樣の感じがある。

抑も人類社會の組織上半面の責任を負ふものは婦人である。婦人は素より家庭を基礎として働かざるべからざるは論なき事なれども、社會慈善事業は其餘力を以て又本然の義務として婦人の活動を望む次第てある。社會の或る半面は常に婦人の力に因て光明を保つ樣になくてはならぬ。

本會事業は尤も廉潔に最も質素に凡ての事を行ひ本部に於ても支部に於ても十分其邊に御注意をなされ婦人の活動する上に就ては都合良く便利に之れを導き活動し易き樣に仕向くる事は最も緊要の事と考へます。愛國婦人會として遺族廢兵を救護する事は勿論なるも、一面には純潔なる婦人社會の交際機關となり、婦人社會の感化敎育の機關となり、義勇奉公の機關となり、益々婦人社會に向て其希望と尊敬とを拂はしむるの方針に出づる事を望む。余は本會の旨趣を最も深く贊成し本會の行動に出來得る限り後援者として力を盡さむと欲する者てある。愛國婦人會として本來の目的即ち遺族廢兵を救護する爲に適當なる事業を施設するが如きことは將來大に研究を要すべき問題てある。我々も顧問として婦人の援助をせねばならぬ位置に居りますが此事業を起すことに就ては十分なる考を要することてあります。又支部に於ても此等の事に就ては十分なる研究をなし救護本來の主旨に適合するが如く施設せねばならぬことゝ考へます。幸にも目下打合會もあれば十分御意見を述へられ本部と支部とが一心同體のものとなり益々會務の發展を計り救護本來の目的を遂行せられんことを希望する處てあります。

茲に御挨拶旁々一言申述べました次第てあります。

靖國神社にて

石川縣會員（海軍士官未亡人）　北川すゞ子

大君の惠かしこしわがせこも　この御社にますと思へば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國人の氣風（最も勝れた婦人）

理學博士　松村任三

◎嚴格なる態度　英人は實際驚く程態度が嚴格である汽車等へ乘ッても隣人と話すてもなく各新聞を讀んで居る中に婦人は編物などして居る者も隨分ある、又道を知らぬ人であッて電車か汽車等の下車する適當な所をきくと眞面に親切に能く敎へては異れるが之を緒口に雜談を始むるでもなく國を問ふでもないが其下車する場所へ車が達すると先の問を忘れず再び其所を敎へると云ふ風である、若し之れが獨逸とか佛蘭西人でもあるなら少しの事を種に此方が困る程話しかくるのである、而し英人の此嚴格な態度は決して不親切な心から出るのではない一見甚だ嚴格な態度が交際して行く間に次第々々に打解けて兄弟も及ばぬ程親切な氣風であることは英國に遊んだ何人も能く知る所である。

◎沈着な風　自分は一度英國にてある婦人に招かれて行ッた時の事であるがある若い婦人が演壇に立ッて旅行した先のことを一同に話して居ッたが聽衆の中から澤山の質問が出る是れは英國での集合の席で能くのみこまねば何時までも質問するから日本にての會に臨むより益することとが甚だ多い婦人會でもさうである婦人もあり男子もあり中には多少議論めいて來ることもあるが甚だ靜に問ひ靜かに答へきくものも語る者も皆最も沈着な態度を以ッて處して居るから何の騷々しいこともない、之れが若し日本てゝもあるものなら所謂野次馬連が澤山居て之を制するに骨が折れる位であらう。

◎婦人の氣風　アメリカ婦人の如く騷々しくない、去りとて又陰氣引こむ類ではない、丁度英國の立派な家庭と云ふは日本の昔の武士風へ宗敎がはひッた樣なもので恐らく此れが彼の國の婦人の氣質を代表して居るかと思ふ、重々しい態度を付ッたる婦人が多いが又米國婦人の樣に夫を後にして平氣で道を散歩するとか夫が妻に遠慮すると云ふ風は少ない。學問もあり見識も備へ實力に於ても決して米國婦人に劣らぬと思ふそれでお轉婆でないから生意氣らしくない男子を後にして平氣で道を行くとか夫に遠慮させて自尊ぶッて得意とする米國婦人とは決して同日の論でない。夫婦の間柄などは何程學問が有ッても夫には相當の敬意を表して居る、其他子供の敎育法なども凡て家庭の有樣は丁度我國の武士的風に宗敎を入れた樣なもので、恐らく之れが英國婦人の氣風を代表して居るものであらうと思ふ。自分の見る所では歐米の中で婦人として最も勝れたる人を求むるなら恐らく英國婦人に及ぶものはないであらうと思ふ。

◎婦人の獨身　英國では男女共結婚せねばならぬと云ふ觀念を少しも有ッて居らぬから生涯結婚せぬ婦人が澤山ある、それて日本人が男女とも人は是非結婚せねばならぬものと云ふ風俗てあるの考へを國民一同が持ッて居ると云ふことを聞いて大變驚いて居る、何程窮屈な考へを持ッて居る國民だらうと呆れて居るのである、而し相當の緣を求めて澤山結婚はして居るが日本の如く時期の過ぎない内にどうでもかうでも妻にして仕舞ふと云ふ事なく自然に任せて居るから各好む所に從ッて發達して居る。

獨身の婦人はなか〳〵元氣がいゝ、學問の出來る者もあり音樂家もあり社會事業敎育事業何會など、云ッて大に活動して居る。交際も上手であるから話しても面白い、其住居は自分て一戶を構へて居る人もあるが大抵中流位の生活する人でも一間をかりて暮して居る、貸間と云うても日本とは違ひピヤノもあり座鋪の飾りは一切備へ付て鏡なども大きなものもあるから、寢室と二間も貸ると余程の位置の人でも大威張りて貸間に居るのであるから、相當の位置ある夫婦者でも貸間て生活し食物は外て間に合せて居る人も澤山あり非常に便利である。

家政

飮んで害なきだけの酒量は何程なるか

○私の家にては、父も夫も酒好きにて、隨ッて常に同好の客多く、金錢の上にも、時間の上にも、誠に不經濟に候。併し此不經濟よりも、尙々心配になり候は、酒毒の身體を害せん事に候。全く酒を廢めしむるとは容易に出來申すまじくと存候へども、せめては身體に害を及ぼさざるまでに、節酒せしめたく、心がけ居候。元來酒と申すものは、如何程の量までは、身體に害なきものに候か、御示し下されたく候。

飮酒の量につき、三宅博士が家事衞生の講義に說かれたる所、左の意味のものこれあり候。

酒精は元來有害無効のものであるから、全く之が飮用を絕つが宜しいと云ふ極端論もあるが、扨全く之を禁斷するとは、今日出來難い習慣となつて居る然らば、衞生上用ゐて妨げのないだけの分量は、何程であるかといふに、其分量も亦甚だ定め難いものである。茲に全く適當な說とは信じられないが、近來瑞西の醫師で研究の上之を定めたものがあるから、假りに之を述べて置く、其說に據れば、酒精のまゝで一日に五十乃至六十瓦までは飮んで、差支ない事になつて居る。此說に隨ふ時は、歐洲の麥酒は一日に一リットル半即ち凡そ九合までは飮んでも害のない事となる。又葡萄酒は一日に六百瓦即ち三合までは差支なく、日本酒は一日に一合五勺ばかりは可い割合である。思ふに是は略適當な分量であらう。從來の實驗に由つても、一日に一合內外の獨酌を爲す者には、格別害を受ける者は少ない樣である。

日本酒は、酒精の含量は適度であるけれども、其飮み方は好ましき習慣でない、宴會の席上で獻酬をしたり、又其時間が大層長きに互つたり、又客に强ひ侑めて酩酊せしむるのを、主人の務めと心得てをる、是は各杯にして、各自が隨意に飮む方が宜しからう、斯くしたならば、時間の費えをも省き、口中の病毒を傳染する處も防ぐことができる。

育兒のしをり（續稿）

ドクトル メデチーネ　長井岩雄

五官器の保護

小兒の時五官器を傷け、又は重き病氣に罹りて、若し全治せざる時は、成長の後迄も故障を遺し、または畸形となる事あり。左れば耳目鼻口悉く大切に保護せざるべからざるは云ふまでもなく、就中視官及び聽官は尤も大切にして、萬一眼病に罹り、又は耳病に罹つて其手當行屆かざる時は、所謂盲目耳聾となり、小兒の時こそ無心にてすごすべけれど、成長の後本人の不便は云ふも更なり、人として世に立つすべもなく、終には世を恨み親を怨むに至り、實に終生の不幸此の上もなく、親も後日に至りいとど不愍に思ふものなれば、假令ひ些少の事たりとも、決して捨置かず、速に夫れ相應の手當を怠る可らず。

第一　眼の養生の事

出產の際母體の生殖器より一種の毒を受けて眼病を發することあり、これ名けて淋毒性結膜炎と云ひ、尤も恐るべき病にして失明すること多きがゆゑに能く注意すべし。若し一朝初生兒重き眼を病めばとて、大人の如く根治的治療を施すこと困難なるがゆゑに、なるべく眼病に罹らぬやう保護せざる可らず。また假令ひ輕症にても萬一視力に障害を遺さば後日修學に差支へ、況して細き文字を讀みまたは精密なる機械を使用することも出來ず、延ひては後來身を立つるのよすがを失ふ者なり。されば視感を欠く時は人世の快樂過半を失ふと云ふも不可なく、實に視官は五官中尤も大切なる者なり。

余は爰に特筆大書して世人の注意を促しきた事あり、そは世に云ふ「トラホーム」之れなり。此病は一の恐るべき傳染病にして既に日本全國を蔓延し春夏秋冬斷えず吾人を惱ましつゝあり。若し夫れ一家一人此病に罹れば全家族に傳播し、二年三年は愚か五年も十年も治癒せずして終には治療の方法なきに至る。余が實驗に由るも、小兒に「トラホーム」の多きこと實に驚くべきほどなり。

抑々「トラホーム」には急性及慢性の二症ありて、急性症は著しき徴候あれども、輕度の慢性症及病の初期は、一見單純結膜炎の如く、格別の苦痛を感ぜず、況んや小兒は一も自覺症を訴へざるが故に、不識々々の間に重症に陷り、終に手後れとなり、また治療の法なきに至る。故に父母たる人も、日常子供の眼に氣を附け、若し一家此病に罹りしものあるときは、直に醫師に賴みて、相當の治療を受け、其他手拭及洗顏盥總て健康の人を別にし、病毒の傳播を豫防す可し。(完)

此頃「新婦人」と題し本誌に紛らはしきものを送り來れりとて各地會員諸君より問合せ有之候へども當發行所は何等の關係無之候間此段廣告候也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講　壇

節婦小野寺丹後之傳

大島光利

今回は愛國婦人の紙上に一席の逸話を掲載して尊覽に供します。如何に其良人が智識がありましても、其配遇の細君が一家の經濟を監督し、夫をして後顧の憂なからしむると云ふ事は、最も必要にて、是に由て、事業の成功すると否との利があるのでございます。吾愛國婦人會は海陸軍の別働隊として、我が國幾多の婦人方の御活動の仕事として、國家を益する事莫大でございませう。玆に口演いたす小野寺丹後と申すのは、赤穗の浪士四十七士の内小野寺十内秀和の細君でございます、最も此の御婦人には限りませぬ、貞妻賢母と稱へられまする方は、夫に理想を貫徹させざるは稀でございます、昔の歌に白露のおのが姿を其儘に、紅葉に置ば紅の玉。此歌が能く社會の墮落を防止する歌でございます。善人も惡人に交はれば知らず〳〵に惡事をなし、惡人も良友に交はれば遂に感化されて善良の仕事を致します。況んや良人は名高き大忠臣、其妻の丹後は五万三千石の藩中にて、有名な賢女でございます。然るに晩年に至つて主家斷絶の不幸に遇ひ、鄕里赤穗を去つて京都竹屋町に住居いたし、常に十内は江戸表と氣脈を通じ、悴幸右衞門を妻に内々にて江戸表に下し、吉良上野之介の擧動を探くらせ自分は山科なる大石の住居にて復讐の手配をなす、彌々時期到來、遠く江戸表へ下向致さねば、義黨の面々四散ばら〳〵に解散したる曉には、大望も叶はぬと存じ、大石内藏之助の先發として江戸表に下だるものは、小野寺十内・富森助右衞門・大石の悴主税良金、頃しも秋の初旬、木々の梢も裏枯て、木の葉をさそふ夜嵐、何れか哀れの媒介ならざるはなし、旅裝を致したる三名は、供人を引連れ瀨田の唐橋にかゝりました、三人回顧つて比叡の頂上を眺め、漣寄する琵琶の湖水を望み、溜息つく〳〵遠近を見渡す、折から富森助右衞門は、小野寺の傍に近寄り、小腰を屈めて「小野寺氏率爾ながら、御尋ね致す、何うも貴下の御顏色が勝れ給はぬやうに拙者に見える、如何なる英雄豪傑も、思ひ中にあれば色外の比喩、何か御心配にてもありますか　我々一同万事御指圖を受ますも大切の御身分、大石大夫は只今の處にては未だ東御上向は相叶はぬ、上杉家の細作を避る爲に其儘山科に御逗留、云はゞ御名代たる尊公の御身上、俗に膝とも談合と申す、苦しからずば仔細御申しきけ下だされよと問へば、十内ホツト溜息を吐き　十「ようこそ御尋ね下だされた、實は拙者も老年なみ我が家の名殘は惜まれど、段々に考ふれば愚妻丹後には今度東下向の話は少しも致さなかつた、風呂屋にまゐると偽つて宅を出て、下郎傳助に衣服は勿論大小もろとも密と持出させ、途中の貸席にて旅裝を整へ、此處まで御同道いたしたが、縱令主家の爲にもせよ、夫婦は二世の緣なるを夫に別れ吾兒に先立たれ、後に殘る愚妻めは、水から落た猿同樣、嘸浮世をはかなむであらうと思はず未練のやうだが胸に浮みしを、貴殿に見咎められたわけ、イヤ面目次第もござらぬと申せば、助右衞門ハタト膝を打つて　助「ハア道理こそ只ならざる御顏色と思つた、ソハ失禮ながら小野寺氏にも不似合なされ方、貴下の御令閨は、若き時に京の堂上方に宮仕へせられて、詩歌管絃の道にも秀で、殊に御賢婦の聞え高いではござらぬか、雖々しき涙に暮て旅行の不吉を見するが如き未練は豈夫ございますまい、何とて遠まはしにても御出立の儀を告げられなかッた、我々なぞも母が自害をなして男氣を勵まし下だされた故、身は琵琶の湖水の邊に在るとも心は吾妻の空に飛び、怨敵吉良上野之介殿を組敷いて居りますやう、母の靈魂常に後背にあつて拙者を守り下ださるやうな思ひにて、後に思ひは更に殘らぬ、貴殿とても失禮の口上ながら、何とか東下向の事だけは御告になられば御夫婦の情愛に悖りませう、苦樂は倶との譬、夫の情は眞に附なり、如何御賢慮をめぐらされるかと申せば、十内暫く小首を傾けゐ、若年の大石主税は只閉眼に涙を浮めて傍に聞いて居ます。漸々十内首肯いて　十「然らば御言葉に從ひ愚妻の元に書面を遣はさう、老年の未練じやと御笑ひ下ださるナア、、、、腰なる矢立を取出し鼻紙袋より紙を採出し、何やらサラ〳〵と認め下郎に對ひまして　十「傳助や　傳「ハア　十「其方太儀ながら竹屋町の宅に戻り、愚妻に此書附を渡してくれよ、夫婦は二世の緣と云ふ決して恨むなと口上で述ろ　傳「ハア　十「粗忽な口を聞いて又愚妻に叱られるなよ、我々は徐々先へ出かける、其方も用事が果たら直に後から追駈て來い、若し小休や又は泊つた處には、拙者の冠れる此手作の夕顏の笠を表に提て置から、直に後から訪て來い、と申し付れば、下郎傳助水洟をすゝりながら頭を下げ　傳「ハア行つてまゐります、先に出かけさつしやいと云ひつゝ、身を返して瀨田の長橋を再び打渡り、京都を指てまゐりました。竹屋町の黴々たる住宅小野寺と紙の標札、十内の妻丹後は夫婦の緣の切目とは神ならぬ身の知る由なく、夫は常より寒がりの性とて、厚き心の綿入の袖なし、縫物に餘念なき折から、傳助は玄關に立上りまして　傳「賴む〳〵と二聲三聲、丹後は徐々に眼鏡を取て針箱に載せ、小紋の衣類衣紋繕ひ、左右の手にて腰を撫ぜ、要咳二ツ三ツ……慇懃に　丹「ドーレと聲をかけ、破れ障子を押排けば、ヌーと立たる下郎の傳助　丹「何だ白痴者め自分の家へ歸つて何が賴むだ、馬鹿な事を爲るものじやアないぞ困つた奴じや　傳「イヤハヤ那麼に慣ろもんでれへ、旦那樣が然う云つた、汝又粗忽な口をきいて愚妻に叱られるなと云つたから、そこで、其丁寧に賴むと出かけた　丹「何だ如何に口のきゝ方を知らぬとて主人を取らへて婆アとは何だ　傳「いや憤られへもんだ、他人が覗ても奉公人が覗ても御前樣は娘じやアあるめへモー婆アの部だ　丹「此奴何う云へば憶ふ云ふ憫れた奴じや、何處に往つて居つたのじや　傳「ハア瀨田の長橋に行つて居りました　丹「何瀨田の長橋へ、何して居つたのだ　傳「ハア歩行て　丹「誰と　傳「旦那の御供で　丹「何に……旦那は今朝風呂屋に行と云ッたぞ　傳「ウン丁字風呂に行かれたのだ　丹「ハテ合點のゆかぬ、シテ其方か供で二人ぎりか　傳「何に富森樣と山科の大石樣の若旦那樣と旦那と三人だ　丹「ン夫で其方とも四人ぎりか　傳「何に俺のやうな供人が未だ二人居りました　丹「馬鹿を申せお前のやうな供が又と二人居る。

か、大方御召替でも取りに歸つて來たか　傳「御令閨樣、御召替などはチヤンと俺が旦那樣に吩咐つて大小と股引脚半まで大風呂敷で裹の垣根越に今朝背負出したのだ、と云はれて丹後は益す不審の顏色にて　丹「待ヨ傳助　傳「ハア御用の濟まで待つて居ります　丹「ハテ合點のゆかぬ風呂屋に行と私に有仰、常から樸訥の其方は承知、其傳助に大小から旅の用意まで無斷で表に持出ださせる、ハテ氣遣はしき事であると、胸に手を當考ふれば、下郎傳助は氣樂なもので、傳「御令閨樣何も他に御馴みの女子が出來て貴下を拋棄ろやうな理由でもあんめへ　丹「ソンナ餘計な口數をきかッしやるナ、夫で何か御手紙でも持てまゐつたか　傳「ハア然うだ忘れて居た、と云ひつゝ懷中から取出したるは丹後どの秀和と記し、鼻紙二つ折の開封、眼鏡を懸て心を靜め熟々視れば三十一文字の水莖のあと

別れては又逢阪と賴まれど

丹「ン、…暫く考へハタと小膝を打つて

たがひやせまじ比叡の山越

他に御傳言はあらざりしか　傳「ありました、夫婦は二世の緣だと云ひなすッた、皆まで聞かずに兩眼より溢るゝ涙泉の如く掌で押へ　丹「夫にて分解ました、偖も〳〵武士ほど辛ひものはない、彌々御大望も近寄りましたか、傳助やお前直に後を追駈て旦那に御目にかゝり、あの正直な悴幸右衞門の行方も知れるだらうと思ッて居ります、今日の御容子にて悴の行方も大概分解ました、夫でこそ我が夫なれ、我が兒なれ、婆も安心致しましたと申し上げて下だされヨ　傳「ハア旦那樣が瀨田の長橋で其書付を書とき、ホロ〳〵涙を滾して居さしッたが、又御令閨樣がホロ〳〵涙を滾すのは似たもの夫婦と云つて爭へれへものだ　丹「左樣な失禮の事を申すものじやない、と云ひつゝ立て取出す、深き思ひや硯の海、鹿の毛の筆命毛の、堪なば堪ヨ君の爲と、綴る文字は瑤墨の、表に黑く記せども、忠義の深き赤心は弓矢の神ぞ知ろしめされん、と流石に小野寺十内の妻、大師流の名筆にて嶽牛切に認めたるは、三十一文字の返し歌、今縫あげたる袖なしと、共に風呂敷の裡に包み込み　丹「傳助、旦那樣に申し上げてくれヨ、今年は別して氣候も不順、御風邪をめしては叶ふまじと、昨夕から縫上たる此の袖なし、眞綿も澤山入つて居りますれば、富士の根がたや、箱根の山は、一層寒さも彌增ませうから、御寢衣にても手を徹して下ださいまし、後は婆が御留守を申せば必ず心を殘し給ふな、猶又御年の上と皆樣に必ず笑ひを受たまふな、確り御願ひ申すと申し上ヨ　傳「ハア何を行のだれ確り行とは　丹「何でも宜い其方の知つた事ではない能く覺えてまゐつて申せヨ、忘れてはなりません　傳「御令閨樣ソンナ無理な事は駄目だ、覺えて居やうと思つても、後から〳〵云はれるので、先から〳〵忘れるじやアないか、マア何うにか行つけべエ、ジヤアなあ婆さん　傳「何だ婆さんとは　傳「イヤ是は旦那樣の聲色だナ、何は兎も角も確に御返事申しますぞと、心も輕く足元も輕く踏出す路芝の露の命のはかなさも、夫は忠義の東下り、吾身は婦人の道しるべ、留居を守るは大事の役目と佛前に香華を備へ、亡き殿樣に御回向を申し、見やる頃にはハヤ下郎傳助の姿は搔消如く失ました。處は恰當東の路筋、五十三次の驛路にて音に名高き御油赤阪、續く並木の中程を、ゾロ〳〵歩行三人の武士、采女がへしの股引脚半、柄袋穿たる大小手甲甲がけの嚴重の扮裝　○「イヤ此處まてまゐつて傳助の來たらぬは、若し路など踏違ひは致しますまいか　△「イヤ〳〵盲目でも錯誤のない東海道、豈夫左樣の儀はございますまい、話す折柄後方より、オーイ〳〵と呼かけて、汗を流して駈來る傳助、三人は足を駐め、振分の荷物を荷ひて片傍なる松の木影に立休む、駈來るものは下郎の傳助　傳「イヤ旦那樣　皆樣方、馬鹿に早い御足ですナ、何處の宿屋を見ても夕顏の二つ割、旦那樣が手拵への笠が門口に出て居れへて、私もハア魂消たと云へば、十内微笑をなし　十「御閑下だされ御兩所、コー云ふ奴でござる、傳助冠つて居る物が宿屋に在か、泊ろか休んで居る時に置と云つたのだ　傳「成程笠が頭に載て居ちや宿屋に無へわけだ　十「夫はよいが愚妻は何と申した　傳「其の婆アが云ふには　十「コレ夫だから困る、主人の家内を婆アとは何だ　傳「けれどもお前樣が然う云はつしやるから、上を學ぶの下だよ、思はず助右衞門は映笑す、十内は傍に立寄り　十「何うした　傳「イヤ旦那樣の書附を出したら、御令閨樣の平常の癖で默つて考へて居さしつたが、コレデ旦那樣の容子が分解ましたと云つて涙を滾した　十「ウン夫から　傳「ン、夫れから云はつしやるのに、コンナに早くなるとは思はなかつた、後は心配しぬへて、年老だなんて人に笑はれないやうに確り行ッせへ、悴の容子も大概之で分解つたと云ひやした、夫から未だ何か有ッたつけ、ン是だ〳〵と云ひながら首に結し風呂敷包を下し　傳「コレハア昨夕から着手て縫上た袖なしだ、富士の山と函根山で手を徹して下ださいと愍ふ云ひやした　十「富士の山と函根山で手を徹せまでは手が屆かぬが、妙な事を云ふ奴だナ、讀懷夫はハテ何うも五尺の身體、老の身の十内、富士から函根違つて居るぞ、此時富森前に進み　富「小野寺氏恐らくは御内室の御傳言に、富士の根形や函根山は都と違うて寒さも劇い、折角仕立たものだから、御寢衣にても遊ばして、手を徹して下だされヨと箇樣申した事でござらうか、何うじや傳助　傳「魂消た耳が達者だナ私が京都で御令閨と話をしたのが、此處まで聞えたか、とも、旦那樣が櫃の側で書時、癖の惡い狆のやうに、傳助何う致した、何か書たものでもあろか　傳「有ます其通りチツトモ違はねへだ、十内再び言葉を次ぎ　十「ポロリ〳〵涙を滾したが、御令閨樣が又譜ながらポロ〳〵涙を滾した、私が似た者夫婦と云つて叱られたてがす　十「コレ控へろ…何だ其返事は　傳「コレです、差出したる鼠半紙の卷封書、

別れては又逢阪と賴まれど
筆の跡見るに涙の時雨きて
云ひ返すべき言の葉もなし

と云ひおこせる返りごとに書たる文字はすゞやかにして、躍るが如く天晴女丈夫の、男子を凌ぐの男氣筆端にあらはれました、十内は小膝を打つて　十「御兩所、老人が婆の自惚じや、此返歌御覽下だされ、年からわかき主税良金も、丹後の返歌を觀につけ、涙いつぱいせぐりきて、但馬豐岡に在る母の身の上坐ろ胸に浮み、後に殘れる人々の心は如何に、事に臨む武士道に、力を添たるものかなと、三人無事に東へ下り、小野寺十内は衆人の眼を驚す功名を致しましたが、是ぞ後顧の憂なからしめたる婦人の力、與つて大なる事と存じまする、先は一席讀切の短篇之にて終局といたします。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國文壇

カセムの古靴（つゞき）

青葉　薫

凡そ樣々の材料をよせ集めたとつうたら夥多しいもので、又其重苦しいときたら大したもので名譽とも何ともカセムの靴と云へば世間の諺になつてゐた。其の證據として凡そ世上で物の重すぎると云ふに就いて談が出ればいつでも「カセムの古靴の樣だ」と云つて比べものにせられるのであつた。

或る日のことである、此の豪商アボン、カセム氏は、ハグダットの市場を彼方此方と歩き廻つてゐたところ、ふとある商人に、上等の硝子瓶が夥多あるが、一つこれ〳〵の値段で買ひ受けて貰ひたいといふ相談を掛けられた。初手からこれは極安て大に利得があるとみた上に尙も値切つてみると相手は手もなく承知したのて、カセムは悉皆右の硝子瓶を買ひ込んだ。するとその商人がいふには、實は一人の香水商が近頃破産して大いに困窮してゐるところから薔薇の香水を大安賣に飛したいと云ッてゐるといふのてある。そこでカセムは、それは何よりも耳寄な話だといふので大嬉び大急ぎて、其香水屋の店へ行き並の半値段で以つて悉皆件の薔薇の香水を買ひ占め、自分の家へ運ばして、前に買つた瓶の中へ一つ一つ香水を入れてしまひさて何しろ、是は好い商賣をしたものだといふので、大浮れて以て然かといつて、心祝ひの酒宴ても張るかと云ふと、其處は仲々さすがに此連中の考へは又違つたもので、近頃暫らく御不沙汰をしてゐた、湯屋へと出かけた。さて綴り合した襤褸の衣を叮嚀に一つ〳〵解いてゐると、カセムの友だち—吝嗇漢に友だちのあつた例は稀だが、少くともカセム自身ては友だちだと信じてゐる——が側へ寄つてきて、

「これカセム、貴樣は知るまいが、貴樣はあの（庭に脫いてある古靴を指しながら）古靴のおかげて町中の胡盧のたねになつてゐるぜ。もう大抵にして新規に買つても好い頃だ。」

と話しかけた、するとカセムは、

「實の處、己も久しく左樣しようとは思つてゐるもの〻まだ萬更役に立たぬほどてもないのてな‥‥‥‥。」

と斯ういつて漸とのことて衣服を脫いて浴堂へ入り、久しぶりてぬく〳〵と暖たまつて珍しく上機嫌になつてゐる處へ、町の裁判官が入つてきた、カセムはやがてそこ〳〵に湯を上り、エッチラオッチラ衣服をきて、さてあの大事の靴は？とみると、さア大變！影も見えぬ。其かはりに、カセムのと比れば天地霄壤も啻ならぬ、新しくて加之に立派な刺繡のした靴がある。これを見ると、カムセの泣面は見る間に笑顏となり、內心ひそかに、これこそ先刻の友達が氣を利かした贈りものであらう、いや是非さうあつてほしいものだと、如何にも都合の好い樣に考へ込み、いきなり其の刺繡のある穿きたての靴にキュッと兩脚を突込みスッと風を切つて前へ一歩踏み出した其心地と云つたら、恐らくなかつたらう。生來初めての嬉しさて嫣然！湯上りて顏の色もほんのり！

ところが一方では先程の裁判官どの、ゆる〳〵と垢を落して、さて衣裳をつけて出て御座つた、御伴の奴さんそれお立ちと云ふので、お靴は？と見ると其處らあたりに影も見えぬ、慌て騷いて探し廻つた末、これはさて奇怪千萬！刺繡をした裁判官の靴のお身代り然と、隅子の方にカセムの古靴先生罷り控へてゐたのてある。いはずとしれた此盜賊は必定カセムと忽ち古靴からあしがつき、奴さんは直樣カセムの家へ驅けつけて、理非をも云はずにカセムを引きたて〻來ると先程から眞赤になつて立腹してゐた裁判官は有無をも云はせずカセムを牢獄へ打ち込んでしまつた。併しながら、東方諸國ては、裁判官の鷲の爪は、罪人の財布の大きさて、寬める事が出來る。されば吝嗇漢だけに富有だと評判のあるカセムは、薔薇香水を買つたような安い代價て牢獄から出る事が出來なかつたと云ふ事は以て察するに足るのてある。

あはれやカセムは、腹立ちまぎれに、罪もない髯を掻きむしりながら（蓋し髯は安價いものてある）家へ歸り、件の古靴を恨しさうに腹立たしさうに、凝視めてゐたが、やがてとりあげて、川沿ひの窓からテイグリス河へ投げ棄てた。

其れから數日のちのこと、テイグリス河の漁夫たちが、丁度カセムの窓の下あたりて網を引いた、すると網が滅法に重いので何でも莫大な獲物のあつた事と大喜びて掛け聲勇ましく引き上げてみるとこれは又思ひもよらぬ、重いとおもつたのはカセムの古靴が掛つたのてあつた。あまりの忌々しさに、漁夫たちは、（蓋し此わたりて凡そカセムの古靴を知らぬものはなかつたので）わざと其古靴をカセムの家の窓へ投げ込んだ。可憐いさうなは、カセムて、何も知らずにゐるところへ、何だた怪物の樣なものが舞ひ込んだなと思うてみると、しなしたり南無三寶、濡れそぼになつた例の古靴は、棚の上にズラリと列べてあつた薔薇香水の瓶を悉く壞したまゝ、すました顏てポタリ〳〵泥滴を垂しながら棚の上を占領してゐる。室中はこぼれた香水と硝子瓶の碎片とで一杯になつてゐる。これを見たカムセは氣も狂はんばかりになつて、例の如く髯をむしりむしり、

「チヨッ！忌々しい古靴め！汝はどこまて己をいぢめる氣だい！」

と唸りながら、在りあはせた一挺の鍬をとつて、其の古靴を埋めに庭へ出た。

すると折あしく窓のかげから覗いてゐた近處の人が、カセムが花園の中を掘り廻してゐるのを見ると、大急ぎて町の裁判官のところへ驅けつけ、

「私の近處のカセムが、寶物を掘り出しました。」

と告げた。意地のわるい裁判官は早速カセムの家へ出かけて、押問答の末、

「とにかく表向きのところは己の手加減て寶物を掘り出したのてはないことにして遣はす。しかし其の代りには、己に其の汝の掘り出した寶物を‥‥な、それ、その寶物をよこせ。」

と云ひ出して、カセムが百方陳辯するところも遂に聽かれず、終ひにはカセムが到頭根負けして、あくまで祟る古靴を罵りながら、黃金の力て厄拂ひをしたのてある。

重ね〳〵の災難に、どうかして此の古靴を遠方へ捨てゝしまひたいものと考へ、遂にバグダットの町を去ること何程の、とある田舍の貯水池の中へ投げ棄て〻、やれ〳〵これて怨敵退散と思ひながら返つて來た。が、これでもまだカセムを苛め足らぬと見えて、件の古靴は丁度水道管へ流れ込み、再びそれを傳うてバグダットの町へ逆戻りをして、水道栓を止めてしまつた。そこて町の水道係の役人は、すぐさま其の修理にとりかゝつた末、例の「にくまれ兒」の古靴はカン〳〵日の照る中へ抛り出され、早速裁判官のところへ持つて行かれて、事の伍什を訴へられると、所有主アボン、カセムは又もや呼び出されて莫大な罰金を拂はされたが、まだそれても此の動產と緣を切ることは出來なかつたのてある。裁判官は右の罰金の宣告を申渡して、さていかにも小むづかしげに、自分は他人の所有權內に屬する財產の保管を負擔する權利を有するものてないと云ひ渡し、さも物々しげに古靴はもとの持ち主へ下げ渡された。カセムは道々この古靴をどうしてくれやうかと考へ〳〵、是非なくこれを持つて還つて來たが、遂に燒き棄てゝしまうことに定めた。ところが水道栓から出て來てまだ間もないことであるから、一應よく乾かした上にしやうと、屋根の上へ干して置いた。すると、惡いときには惡いことの續くもので、折柄戲れてゐた近處の小猫が、何か見なれぬ食でもゐるものと思つたのか、屋根づたひに走つて來て、古靴の片方を咬へて頻りにおもちやにしてゐるうち、どうした機會か片方の靴は欄干から轉り落ち、例の有名な重い靴のことゝて、折あしく軒下て遊んてゐた幼兒の頭の上に墜ちかゝつたと思ふや否や、あつといふ間に幼兒は息絕えた。さア大變！幼兒の兩親はすぐさま裁判官のところへ驅けつけて、

「私どもの小兒が唯今殺されました、其の側にはカセムの古靴が片方落ちて居りまする。」

と訴へ出たので、カセムは今度こそは愈〻莫大な辨償金を拂はされた。カセムは夢中で家にかへつて來て、また引返して裁判官のところへ行き、

「この古靴こそは私の災難の源でござります。あゝ〳〵！これのおかげて私は身代も耗つてしまひます。閣下、どうぞ今後はこの靴につきましては、たとひ何の樣なことが起りませうとも、一切私に於いて引き受けぬといふお觸れをお出し下さりませ。お願ひてござります。」

と、殆んど狂氣のやうになつて願うたので、さすがの裁判官もこの願ひを聽き入れぬわけには行かなかつた。尤もカセムの身代がもう盡きて、罰金の出どころがなくなつたからてあつたかも知れぬ。かくて吝嗇漢のアボン、カセムは、新らしい靴を一足買ひ惜しんだ爲に、遂に身の破滅を來したのだといふことを學んだ。

（完）

もつ人の心によりてたのみとも
あたともなるは黃金なりけり

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みだれ咲

夏の聲

懈道人　大森惟中

四時の聲を評すれば春は悅びの聲をあげ秋は悲みの聲を傳ふ、夏の聲は噪しく冬の聲は淋しといはん、その中に秋聲は歐陽修の筆に賦せられ人として悽愴の感を興さしむ、イデヤ道人も夏の聲を寫して人間午睡の夢を醒まさせん、抑も聲は音樂の調ほど耳を樂ませ心を娛むるものはない、乍ち高く乍ち低く斷えなんとして又續き歡ぶ可く戚む可く感ず可く慨む可き者みな其の中に在り、是れその節奏の緩急抑揚輕重去來、宜きに從て變化するに因てなり、鳥の春に囀り蟲の秋に鳴き風の冬に叫ぶは特にその節序を表し鳥聲に喜を寄せ蟲聲に哀れを催し風聲に枯寂を覺ゆる等一の感情を惹くに過ぎず、獨り夏の聲に至ては種々雜多なり、個々各別なり、一變一化の甚き唯に音樂の節奏のみならず、厭ふ可く憎む可き者も亦復たこれあり、豈單に雷の鳴るのみを以て夏の聲となさんや、此を小序と爲す、

夏の聲を記すは秋聲賦に擬へて文章の巧を示すにあらず、その數多を擧げんとなれば淸少納言の筆意に倣ひ「モノハ」付の體とせん、

忙しきは杜鵑、首夏の初聲に後德大寺殿の曉の夢を破り、ひと聲を月に遺して影さへ見せず、誰が計へたか八千八聲、誰が見たか血を吐て死

劬しきは雲雀、麥秋の薄寒きも忽ち晴るれば舞ひ揚り、雲井はるかに聲かすむ、告天子の身の勞しさ、天には電話の掛らぬ爲か、

昵しきは乙鳥、遙けき海を渡り來つ、旅次に雛を生み育つ、網繆は陰雨の至らざる前、ひとの椽端を假寢の床に喃々かたらふ雌雄、

閑けきは水雞、庭鳥の名はあれど時を報さず、水田の秋苗を望む閑靜の宅を憐にし、晝と云す宵と云ず客なき扉をホト〳〵叩く

擾さきは蒼蠅、飯の上に來るを逐ふは猶ほ可なり、枕を呼べば面を舐り箒を操れば手に纒はる棕櫚葉の笞を逃れて擾々と聲を作す、之を小人の聲に喩ふ類、之の憎む宜なる哉、

忌しきは夏蚊、蝿の隙に四面の楚歌を起し、椽の下に一團の鼙鼓を鏃す、火攻に逢て退却するも暗に乘して襲擊し來たる、寄語す蝦蟆軍よ、口を開いて此の醜虜を呑滅せよ、

聒しきは田蛙、古池に飛び込む音は靜なれど廣田に鳴き連る聲は聒し、任他れ雨夜の旅枕に孤寂を慰むるは殷かなるが眠心好し

淸けきは河鹿、蛙の名あれど聒しからず鹿の稱あれど悲し氣なし河水に栖みて泥水に生れず身は小く黑けれど聲は徹りて淸し

噪しきは油蟬、ミン〳〵は急調なりカナ〳〵は促調なり特り油蟬は熱調とす、三伏の飯に蒸るゝ上に鐵鍋を燒く暑を加へ人の耳を熱着來る

右は動物の聲てある、若し夫れ天地の聲を擧れば、濕やかなるは卯の花下し、五月雨の軒の滴り、鋭きは矢よりも疾き白雨の板屋に中れる、烈しきは霹靂の落て喬木を摧ける、潺々たるは溪川の水增して石に堰く、滔々たるは湖の溢れて灑を成せる、丁當たるは夕風の簷鈴に觸るゝ等なり、人の聲を作す昔に在て今無きは松魚賣の俠なる鰹賣蝦賣の曼なる心太賣の滑かなる、白玉賣の冷かなる山玉祭の番付賣が長く引て後の促れる思ひ〳〵なり、今も昔に替らぬは甘酒賣の舌たるき、酸漿賣の調子付けたる如齋屋の藥賣が抽斗の鈕の寛く急に響すなぞてある、兩國の川開きに勇しきは花火の筒音、賑しきは玉屋鍵屋の贊ことば、ドヨめくは押しつ押さるゝ橋の上の人聲、カン走るは衝突を防る艀頭のかけ聲、訛り多き隣家巡査の制し聲、哀れ氣なるは子供の枝豆賣る聲、床しきは離おろして上流へ遡す櫓の音、岸邊の方を見れば暇くは桟橋に仲居の送り迎ひ、浮きたつは見晴しに藝妓の撥音、仇ッポイは小路を流す新内節、ワル煩さいは庭前に立込む假聲劇の鑼拍子木、これ等は都て夏の聲なりと暫き了らんとする折しも次の間より先生と呼ぶ書生のトンケウ聲、マダ一つ遺つてる聲があります、遠く聞けば雷の轟くごとく、近く聞けば狼の吼るがごとく、小兒は畏いと怖ち怯れ、近所は困ると迷惑する、ハテな其は何の聲か、ソレは先生の午睡の大鼾、(をはり)

思潮

元良博士は實業之日本(五月十五日發兌)に於て人格修養の理想を說き如何にして人格は修養すべきかに付詳て日人格の修養とか或は倫理などゝ眞面目に說き或は之を修養しやと思へば是等の區別は一切捨てゝしまはればならぬ。身心全體が人格である。そして其全體を修養するのが人格の修養てある。一言に云へば王陽明が知行合一を說きたといふのも、詮じつむれば畢竟この意味と同一に歸すること思はれるのてある。又偉大なる人格とは何ぞやと題して日く、

偉大なる人格といふ事はどういふのてあるかといふ事は、素より之を數言にて論ずるといふ事は出來ないが、唯其偉大なる人格の必要な條件を數へるといふ事は出來ないてもあるまいと思ふ。

(一)偉大なる人格は大なる目的を有つて居る。即ち個人の利害といふやうな事を離れ、又特に一社會の利害といふ事をも離れて、廣く人類の利害、人道の利害なと大きな事を目的として居るやうてある。否自己の利害が人道の利害と自ら符合するのてある。尤も之れは實を言へば大人格の結果て原因てはないのてある。

(二)偉大なる人格は此人生間にあつて互に衝突する如くに見えて居る處の種々の意見を皆容れて、皆に自分の頭に容れて居るのみてなく、それを又うまく調和しやうとする、調和的態度が自ら備つて居るのてあらうと思ふのてある。

(三)偉大なる人格は、其感情が、些細なる事に激する事なく大海の水の如く靜にして居て、自ら其處に大なる勢力を包含し、感情なきが如くにして大なる感情を有して細大漏さず各人に同情するといふやうな温かな大きな感情があらうと思はれる。

(四)偉大なる人格は自分をよく制する事の出來る人てあらうと思ふ。人を制しやうとするには自らを制せなくてはならぬとは古めかしい言葉てはあるが、此古めかしい言葉が何時も新らしい意味を有て人類社會の上に活きて働いて居るのてある。さうして此自分を制するといふ事が自づと人を制する事になつて來るのてあらうと思はれる。それ故に他の人から之を見れば大人格は何となく一種の磁石力の如き力を以つて人を惹着けて其人に接すれば何となく一種の感に打たれて愉快とも尊敬の念とも言はず一種の感化を受けるものてある。

此言の質に服膺すべく近時社會ますく〳〵複雜化するに方り斯論出づ其影響する處大ならむ

學士前田慧雲氏は警世新報(六月一日發兌)に於て短氣の治療を說き其末節に日く

「世の諺にも短氣は損氣といふ通り、一寸した他人の言行に對して始終怒燃するやうては實に我身の不利てある、今日世に稱する煩悶不平といふものも、畢竟この短氣の結果てある。餘り人生を宜く見過ごして、自分て自分の心を苦しめ人生の不如意を嘆きて、徒らに世を憤り人を罵りて短慮を起し、自ら求めて身を殺すやうなことになるのてある、人は積極的にも消極的にも忍耐といふことが大切て、此忍ぶといふ氣がないと、一日も氣樂に暮らすことは出來ぬ、見るもの聞くもの皆癪にさはりて不滿不平の絶える時はあるまい、短氣はつまり忍耐心の欠亡より起るので、短氣を直すには忍耐心を養ふより外に道はない、正眼法師の所謂る直すといふことよりも、出さぬやうに心懸るのが一番肝要てある、されば一日も早く佛陀の敎を信じ、無我の眞理を體得して、外界の誘惑障礙に動かされぬやう修養するが宜しい、さすれば自在に我情を制御することを得て、缺陷多き不完全なる人生も、圓滿に經營することが出來るのてあります。

此言や缺陷多き不完全なる人生の經過に對し又得難き福音と信す。

統監府書記官兒玉秀雄氏は財界(五月號に依る)に於て韓國に於ける邦人移住の進力を說て日く移住の進力はどの位てあるかと云ふに三十七年の末頃日露戰爭の初期に於て日本人の韓國に在住する者が三萬一千と云ふ數てございます。それが三十八年九月に至りまして五萬五千。最近の調査に依りますと、是等日本人は餘程の膨脹をして八萬二千と云ふ數になつて居ります。此計數は御承知の理事廳に於て取調べた計數てございます。併し實際理事廳の登記漏れのものが隨分澤山てございますので。是等を合すると十萬以上の日本人が韓國に定住して居ると云ふて差支へないと信ずる。(中略)是等の人は如何なる職業をして居るか其職業を統計の上て調べて見ると、一番多いのは矢張雜貨商てございます。次に多いのが大工てあります。又何處の者が一番多く行つて居るかと云ふに、山口縣の人間が一番多く一万四五千人居ります。次は九州の各地てあります。

生產に工業に將何れに於ても富源多大なる韓國に於て加斯移住者の增加しつゝあるは眞に喜ばしき現象なり。

和歌、俳句、短文新體詩募集

愛國婦人の愛讀者諸姉よ本誌の花たる歌俳句其他益々諸姉の佳什を得て紙上に光彩を添へんと欲す諸姉願くは此希望を容れ左の事項に由りて陸續寄稿せられんことを

回數	種類	題	選者	締切期限	發表期日
第五十八	歌	奥村五百子女史を思ふ	大口鯛二	七月三十一日限	八月廿日
		夏の旅	佐々木信綱	七月五日限	七月廿日
第四十九	短文	梅雨	編輯局同人	仝日	仝日
第廿九	俳句	暑	內藤鳴雪	仝日	仝日
		夏の山			
		蟬			
第卅六	新體詩	閨	編輯局同人	七月五日限	七月二十日
		奥村五百子女史を思ふ	同上	七月卅一日限	八月廿日

○一二三等當選者には美しき扇子其他の物品を贈呈すべし

○前號に告げ置きし通り「奥村刀自を懷ふ」歌と新體詩とは刀自の傳記中に收錄すべし七月卅一日迄に送付あれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文

△天眞爛熳（二等）　山形　阿部さる子

今年三つになる我愛甥、活潑で口輕な彥ちやん、其姉の六つになるごく物言ひ不足な美千ちやんと、どん〳〵かけ廻つて居つたから、私はやつと美千ちやんをだきとめました。すると、彥ちやんは、すぐに納戸にかくれてしまつた。私は膝の上の美千ちやんに、此間どこにいつたの、と尋ねると、彥ちやんは、早きゝつけて、入口の暖簾にすがり、林檎の樣な頰の、愛くるしい顏を、其間からぬつと出し、だまつて居る姉ちやんを見て、酒田に行てきたつていふもんだよ、と敎へる樣子をかしくて笑ふと、顏をこしらへ、をかしな手ぶりをしてひつこんだ、今しもさせる夕照は、皆の笑顏をてらした。

評曰　描し得てをかし

△蝶の卵（二等）　青森　吉田安子

私か植ゑし優しい撫子草の小鉢を、窓近く置きしに、何處よりか、白き蝶が訪ね來て、十餘りの卵を產み付て去りぬ。撫子草の花は散れども生るゝ蝶々の見まほしく、日毎〳〵よき日陰にて育みぬ。羽根も柔かき美しき小蝶や生ると、今日しも小鉢を訪ねしに、妹は面青ざめて驚きぬ、と見れば怪しや二目と見られぬ靑毛蟲。

評曰　着想尋常ならず

（群馬縣群馬郡清里村　本會幹事木暮千代子）

かやりび
佐々木信綱大人選

天　三河　山内經子

物學ぶ子等かためとて心して　むせはぬまでにたくかやりかな

評　いひざまはまだしきふしもあれど、やさしき母の情をうたひ出られたるに感じて「天」に選びてぬ。

地　京都　吉光寺敏子

幼くてわかれし乳母のおもかげの　ふと目にうかぶかやり火のもと

評　おだしく女らしきうた。

人　東京　中隈富士子

よきほどにかやりたきてよとなり人　老いたる母のずゝみいませは

評　此歌はた、やさしき女心のあふれたるをもて採りつ。結局原作おはせばとあり。おはすればといふべき語格なるをもて改めしなり。

○秀逸

魚つりに行きつる子等をまちわひて庭さびしくかやり火をたく　栃木　檜山ちゑ子

眞柴たく軒のけふりにむせぶ蚊の聲もいふせき夕ぐれの宿　山口　末田貞節子

みどり子もこゝろやすけに夢むすぶ母のかやりの煙かくれに　岡山　貝原壽惠子

ゆふぐれのかやりにむせふくるしさも後をしのびてしばしこらへん　青森　大橋つれ子

いふせくもしばし蚊ばん蚊やり火のあとうらやすき宿と思へば　同　上

留守居して蚊遣たくなり賤の女は田植かへりのせこやまつらむ　福岡　松村嘉賀子

をちこちにひの見え初めて一しきり蚊遣の村となりにけるかな　東京　秋元小菊

板しきのちりうちはらひ蚊火たきて友まつ程に月はいでにけり　群馬　伏島たき子

去年よりの都話を語りつゝふくるも知らで蚊遣火のもと　青森　三上八重子

いふせさもしらでぬる子は母がたく蚊遣の中の夢やたのしき　山口　末田竹子

しらけしの花うつくしき夕はえを見つゝ翁のかやりたくなり　長野　金野やほゑ

折り〳〵は笑ひ聲して蚊遣火のあかくほの見ゆ木かくれの宿　群馬　木暮千代子

もてなしにたくとおもへは乳母か家の蚊火のけふりもうれしかりけり　京都　池田美登

甲

病む母をみとりながらに蚊遣火のけむにまぎらせむせぶ夜かな　愛知　湯崎とよ子

かびけふりいぶせき宿の夕顏をくもる軒端の月と見るかな　宮崎　坂元はま子

蝙蝠のかせにただよふ軒端よりひとすち白く蚊遣ながるゝ　岡山　武田須磨

ねもやらで蚊やりたきつゝやむ母のみとりやいかに苦しかるらん　岡山　清水梅子

やう〳〵にうばすむ宿をたつねくれば蚊火たきすてゝ人かげもなし　石川　廣野すて子

すゝみかてらめのとの宿をとひゆけば蚊遣の烟におとろかさぬ　靜岡　靑木きぬ子

さみだれはいつしか晴て蚊遣火の烟たな引川つらのきし　福岡　杉山光子

をさな子の夢さまさじと賤の女は蚊やりたきつゝ糸くりかへす　東京　山口文子

夕月のふけゆくまゝに蚊遣火のけふりはたえし蛙の聲ぞする　同　麻生とし子

垣一重隔てし宿のかやり火もながむる月のくまとなりぬる　青森　大橋つれ子

となりより蚊やりの煙末さえて夕がほ白きよもきふの宿　京都　古川よれ子

ひはくれぬ蚊のこゑしけくなりにけりいさいふせくもかやりたかまし　大坂　十合貫美子

をさなこがなきたつこゑやしづがやのかやりのけぶり月にやいりけん　京都　鈴村ふく

賤のまのあつさ休めに山かつはしゐながらに蚊やりたくなり　東京　田中松子

小車の窓より見ゆる山もとの里のけぶりは蚊遣なるらむ　愛知　下江すゑの

かやりしてのちの夕げのまとゐこそいひもしられずたのしかりけれ　埼玉　加藤美代子

日に月にすゝみ行く世は蚊遣火もたゞ一本のそらたきにして　三重　小島駒子

月めてしのきのすたれにかゝりけりとなりにてたく蚊火のけぶりは　山形　阿部さだ子

いふせしと子らのせかむを怨むる親もむせひぬ煙る蚊やりに　青森　大橋八重子

乙

たそがれに宿はいつれとわかぬまでかやりのけふりたちのほりつゝ　東京　長鹽錠子

ひろもなほかやりたくなり清水と山下の庭に夏はなけれど　愛知　梅村八代

なかしくもわれまてそとに逃いでぬたきすごしたる蚊火のけぶりに　京都　花輪余志野

遠く見ゆる青葉のかげの一つ家に細く立ちけりかやり火の煙　青森　留目文子

はる〳〵と賤が翁のかりとりしはた柴くゆる夏の夕くれ　京都　野崎千代子

かやりたくこの夕ぐれを旅人にたつねられけりかくれの宿　福島　區田としの

蚊はつらし蚊帳はあらず暑き夜に蚊遣のもとにいぬる苦しさ　北海道　新保みつ子

家毎の蚊火のけむりにさす月のかげさへかすむ小山田の里　三重　小島敬子

いふせくも見ゆるは蚊火のたつ霞か山の裾引くをちかたの里　三重　中島かす子

かしきするけぶりにすらもいふせきにまたかやるらん里の夕くれ　三重　中島千萬子

子等はみな田より歸りて蚊遣せむ門の椎の木煙立つ見ゆ　北海道　河内りつ子

なにひとのやとにおくれてかりねせし松の下道殘る蚊遣火　同　小野寺ちとせ子

なき人の魂を迎ふるをから火の消えぬ内にや蚊遣りたくらん　東京　堀野仙子

夕されば遠の一村かやりして夏もかすむと見え渡るかな　三重　西山ひさゑ

住わびし眞柴折しく縫の庵にひとりたのしくかやりたくなり　栃木　檜山いつ子

賤の子かかやりにむせふ聲すなりやかて煙の中にすくまむ　宮崎　山下むら

軒ちかき夕がほたなに夕影のきゆるかたよりけぶる蚊遣火　栃木　和田いく

軒ごとにたく蚊やり火に月かげも煙りて見ゆる夏の夕ぐれ　青森　田島政子

川にそふ柳を垣の伏屋よりむせふ聲あり蚊火けぶるらん　山梨　中川梅子

月影もくもるばかりにけふれるは賤が軒端の蚊遣なりけり　愛知　下郷きみ

我せこは小田の田植に出てましぬ蚊やりして待つ夕まぐれかな　靜岡　小川須磨子

蚊のこゑもけふりと共にきゆるらんしつか伏家の夏の夕ぐれ　大坂　佐藤眞子

あつき日をしのぎしものを夜はまた蚊遣の熱になやむ　北海道　山崎ゑい

糸つむぐ伏屋の門に立寄れば月にうすれて細る蚊遣火　岡山　山崎ときよ

家ごとに蚊やりのけふりしけゝれば夏の夜なしき月影　靜岡　石川利根子

月影もくもるはかりに蚊遣火の立そふる夏の夜半　東京　土師

すや〳〵とまどろみかゝるうなゐ子に母がつるせる宿　三重　莊司種子

賤の家に蚊遣の煙たなびきて見えぬ蚊が住居　同　庄司みや

賤の女がたきし伏家のかやり火のけふりにむせふ夏の夜　青森　大橋

うき世の夢路を破る蚊の爲に蚊遣火かたまでに　岡山　藤波音子

うつりしゑにうつしてや見ん夏の暮れの　青森　三田中秋子

此奥に人や住むらん今朝の川流るゝものは蚊遣くづな　東京　西川

りなふせさはいふはかりなし夕まくれかやり火たかぬ家　靜岡　木俣六め

そよ〳〵とかぜになびきてわが庭にたつるかやりの哀　神奈川　鈴木松子

れやるかなりたく家にすむ夜はかく文もけふりにむせてかゝ　長崎　葛原香

茂れりあふ薄の宿のいふせきに貧も蚊遣のほしくもある　東京　渡邊仙子

窓に庭に蚊火の煙りのしげきかな雨ふる里の夏の夕暮　青森　吉田やす子

うきふしを折たく柴の蚊遣火に桑の葉つゆをほせる賤　北海道　山村つる子

さらてたに住憂かりける賤か家をところせきまてくゆ　同　山村幾代

かひつゝ蚊遣火のけふりはもれて池の邊の柳のもとに立ちま　栃木　中村久子

よびつゝ蚊遣たく煙の末やいかになるら　京都　山本篤子

家毎にゆふべ〳〵の蚊やりたくゝれのゆめにうすらく小山田の里　兵庫　下田松枝

蚊遣火をたく賤の男がうた

俳句
內藤鳴雪大人選　蚊遣火

天　夕月の軒端に暗き蚊やり哉　東京　鈴木榮子

地　油賣去りて小村の蚊遣哉　豐前　杉山光子

人　ひとつ家に人あるさまのかやりかな　京都　鈴村ふと子

○

蚊遣火や月に麥うつはたか人　岩代　長谷川吉野子

淺ろ雨にいふせき宿の蚊遣かな　青森　下郷きみ子

朝立の人に聲家の蚊遣かな　京都　鈴木壽子

船を捨てゝ戻れは宿の蚊遣かな　横濱　平野きよ子

蚊遣たくかけや少女の糸車　東京　彥坂たき子

其の中にゆかしき香あり蚊遣草　北海道　山村する子

燃ゆるまであふぎ立てたる蚊遣哉　青森　津幡とし子

浴みする人に置替ふ蚊遣かな　三重　西山ひさゑ

蚊遣火や柳にせまる夕景色　東京　中山正子

歐人はむせひつゝよむかやりかな　東京　中隈富士子

賤か家はかやりに更くるまとゐかな　山城　古川よれ子

くべ置て庭におりたつかやりかな　名古屋　梅村八代

三日月を見うしなひたる蚊遣かな　京都　池田美登子

蚊遣してなき人しのぶ夕かな　長崎　相部よし子

掻よせた庭を今宵の蚊遣かな　愛知　下郷すゑの

あちこちに居なほりてたくかやり哉　山形　阿部さゐ子

新體詩

△愛國婦人に題す（二等）　山口　末田竹子

家貧しくて大方の
學びの庭にいりたゝぬ
身こそ深山の朽木なれ
心は花になさんとて
月に二度來るふみを
師とも友とも賴みつゝ
讀みもて行けば嬉しくも
世の道理はつばらかに
しられけるかなかくしつゝ
遂に心の花さくら
さきて匂はゞ梓弓
春の女神のかざしにも
召されやせんと行末を
思へばいとゞ樂しかりけり

選者曰　塵外に立てる深山の花いとゆかし

△齒を病む弟に（三等）　京都　松岡里代子

甘きなさけの過ぎたるか
齒痛になやむ弟よ
堪へぬつらさを我に泣け
おほふに袖はせまけれど
熱き情けに滿てるわが
血の溫かき胸によれ
可愛き頰に當つる我が
指細けれど眞心に
撫でいたはらば效なからめや

選者曰　この溫情には齒痛も治すべし

寄贈圖書其他

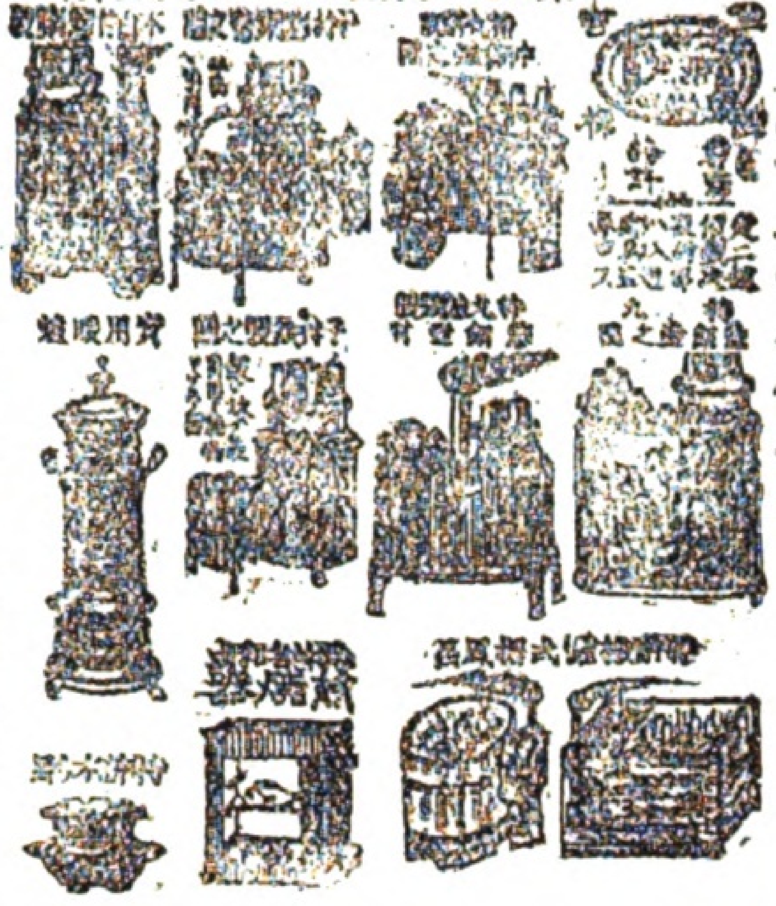
○肖像畫會主篠原淸興氏は小笠原子爵の紹介により故奥村五百子刀自の絹本水彩肖像畫を寄贈せられたり○（賜天覽）小櫻五月安二郎氏著○蜜蜂飼養法（稲田芳之助氏著）○獸肺病（白根淸四郎氏著）一名肺の保養法

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本第一の大勧業場

東京新橋角
帝國博品館
電話新バシ 一六五二 三六一

●第五回内國勸業博覽會受賞
正定價引なし



營業品目
特許籠各種●特許据風呂
特許テンピ●特許木炬呂
實用暖爐●鍋釜品々
日本橋區蠣殻町二丁目十五番地
神田泉町通松永町十八(電浪一一七七番)
名和本支店

金銀寶石細工
西洋小間物
化粧品

東京神田小川町壹番地
金石舎美術店
電話本局六八一番
東京勧業博覽會第一號館出品及不忍池畔辨天賣店

從四位淺田宗伯先生直傳
たんせきに
淺田飴

良藥にて口に甘し
定價 金五拾錢 金參拾錢 金貳拾錢 金拾錢

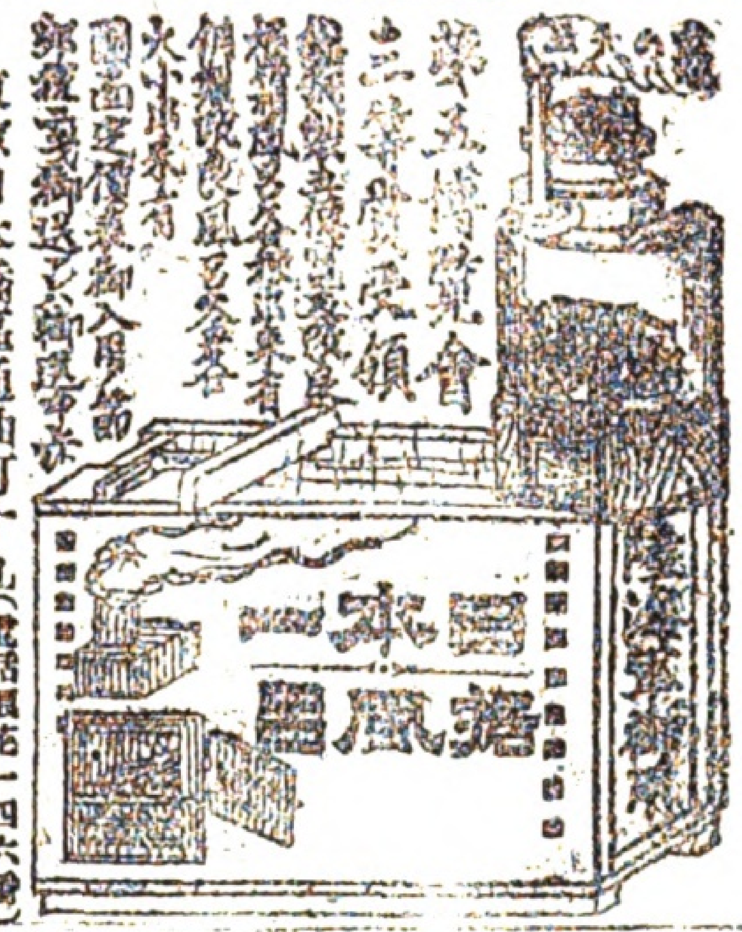
本家 大阪北久寶寺町
東京神田鍛冶町
堀内伊太郎
※品全國到る處の菓店に販賣す

登録商標 N.R.CO.
ゴム裏雪踏
●發賣元 東京市神田區上白壁町九番地(電話本局貳千五百五十番) 今井商店
●販賣所は全國到る所の有名なる履物店にあり(近頃粗悪なる類似品あり御購求に際し御注意を乞ふ)

TAKA-DIASTASE

工學博士高峰讓吉先生發見 パーク、デビス社製
タカヂアスターゼは多數醫學者及藥學者が化學的並に臨牀的實驗上其効力を證せられたる有名なる胃腸新藥なり
本劑の澱粉に對する消化作用は猛烈なり
而かも毎製品强度一定效力永久不變なり
虚偽にして無効なる藥劑を本劑と同等なりと稱して誇大の廣告をなし販賣をなすものあり必ず高峰氏タカヂアスターゼと指定すべく需用者諸君に注意す
我多數醫學大家が發表せられたる本劑に對する實驗報告を集載せる說明書は御要求に從ひ無代郵送す
發賣元 東京市本町 三共藥品合資會社
本劑は粉末七瓦入十四瓦入廿八瓦入中瓶入一磅入の各種錠劑(一錠〇・一三瓦)百錠入及本劑中パイント入として發賣せり各地有名藥舖にて販賣す

タカヂアスターゼ



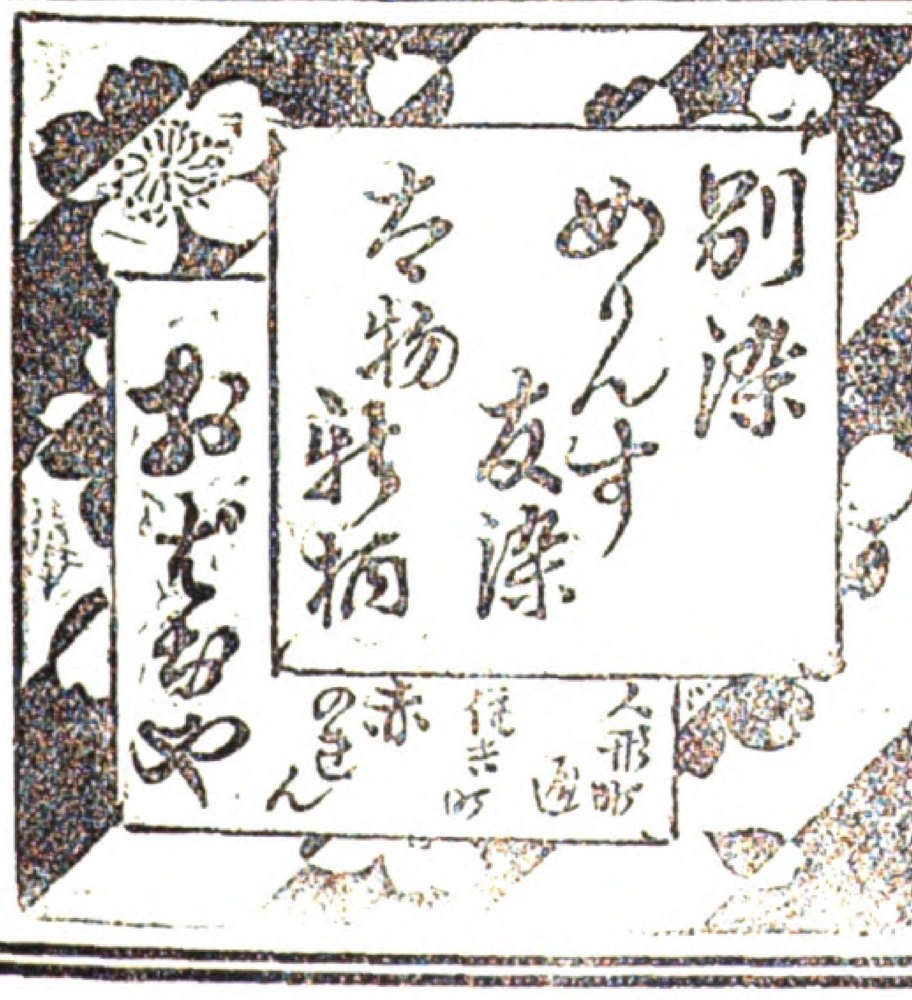
第五回博覽會三等賞受領
發賣元 東京日本橋區通油町十九(電話浪花一四六番)
銅器物問屋 南部鐵瓶販賣 石川商店
代理店 京都柳馬場 春井喜助

腦病 脊髓病
醫學博士 土田卯三郎
●午前 自宅 神田多町壹ノ八
●午後 佐岩病院 日本橋區蠣殻町
神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等

○銀側兩蓋之部 流行薄手形
價八圓半
價十圓半
價十三圓半
價十四圓
價十七圓半
○金側兩蓋之部 流行薄手形
價三十三圓
價六十九圓
價七十九圓
價九十五圓
價百十五圓

商品案内 無代進呈
東京市京橋區銀座一丁目
電話新橋(二三三一)
伊勢伊時計店

○夏季節用レース附薄地ショール
○染模様絞り形片側帯丸帯地單帯兵兒帯
○長襦袢○襦袢○袖け出し地
夏季節 斬新柄 半ゑり帯揚
○木綿中形小紋染浴衣卷
○懐中帛紗○ネクタイ襟飾○伊達巻下〆
○千代田袋○守巾着○涎かけ○美人ひも
新橋竹川町十二番地
電話新橋二〇二七番
神田表神保町一番地 支店
電話本局九百五十二 支店
池の端雪見橋最寄り出店
麹町區内山下町五二館内
當時大賣出し中景品進呈
新橋際博品館内階下出張店
ゑり治 ゑり治 ゑり治 ゑり治 ゑり治



◎家政百箇條 定價金拾貳錢 郵税不要
麹町區下二番町
大日本女學會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

教育家は棄石なり

教育小説

棄石

上製全一冊定價金七十錢郵稅八錢

本書發行要旨　本書と教育者

本書は如何なる使命を以て現はれたるか？日々教育家及び一般の人士に慰安と自重と奮闘とを與へんが爲に著はされたる者なり未だ我邦に此種の著述なき今日：爰に一道の光明有

東京高等師範學校教授　小泉又一先生著

教育家は世の棄石なり、見よ如何なる大厦高樓も其の下に（人の知らざる）棄石は上部に現れ居る部分よりも大なる力を存し居るには非ずや世に教育家には棄石なからんか今日の文明も今後の發展もなかるべし……讀め無前の新小説を……

東京神田表神保町　同文館　振替貯金一三五一番

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特）一九六五番　一二四四番

下山高橋二博士指導製造

クレソール石鹼

定價　大壹個金拾五錢　小壹個金八錢

洗濯用鹽水石鹼

定價　棒製壹本金貳拾錢　型打壹個金四錢

東京日本橋區本町三丁目　三實堂

村井弦齋新著　婦人界寶典　婦人大典

婦人の日常生活法

價　並製一圓郵稅十錢　上製洋裝金文字入壹圓廿錢郵稅十二錢

大評判（家庭の重寶）

内容百餘項中の一部を御覧なさい

▲朝は如何に床を離るべきか……
▲齒は如何に磨くべきか……
▲顔は如何に洗ふべきか……
▲石鹼と洗粉とは何れが宜しきか
▲髪の油は何を用ふべきか……
▲髪は如何に洗ふべきか……
▲白粉は如何に用ふべきか……
▲何の食物が色を白くするか
▲入浴は何時が宜しきか……
▲寢巻は如何に造るべきか……
▲身體は如何に臥すべきか……
▲月經時は如何にすべきか……
▲手紙は如何に書くべきか……
▲土産物は如何にすべきか……

四谷龍題君著

太郎の質問に母の答

◎正價廿錢郵稅四錢

母の巧拙は小兒の發育に大關係あり本書は答の爲方を詳細親切に說明す

東京京橋區南紺屋町　實業之日本社　振替貯金口座三二六番

日本興業銀行

東京市麹町區錢瓶町（常磐橋内）

電話〇〇（一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一〇〇番　（特）三七番　一〇二番）

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

西洋酒鑵詰食料品

清酒壜詰　世界長　御進物用美麗箱入

最上清酒

世界長は内務省衞生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり

壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種

東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）

發賣元　高橋商店　電話浪花一五六一番

東京勸業博覽會第二號館酒類ノ部ニ出品

袴乃親玉

卸部　美濃磯本店　東京日本橋區長谷川町　電話浪花二八五九番

小賣部　美濃磯本郷支店　本郷區本郷五丁目　電話下谷一四一五番

美濃磯淺草支店　淺草區諏訪町

美濃磯佐内町支店　日本橋區佐内町

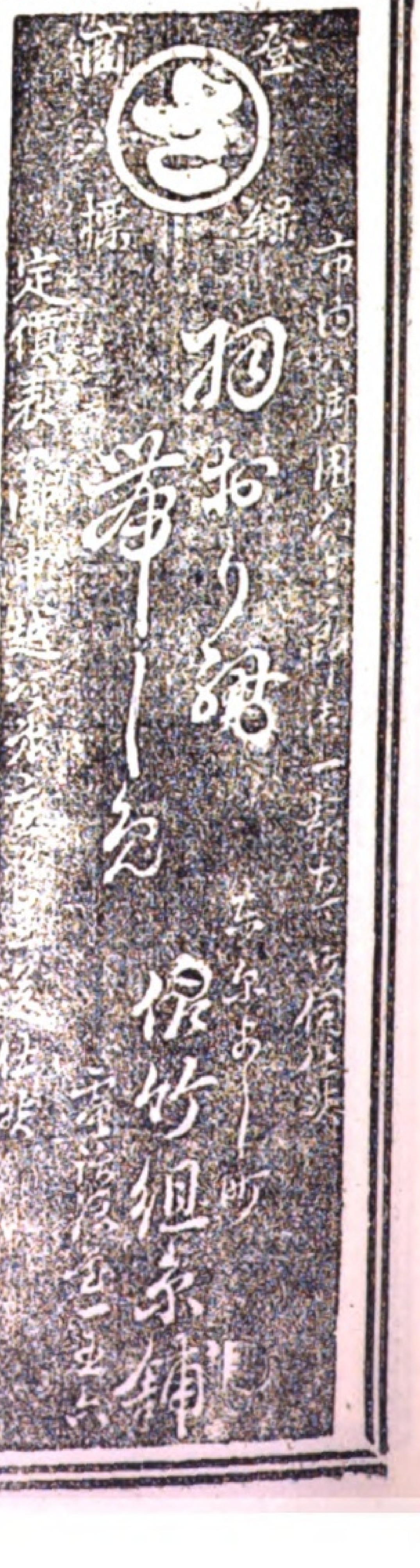
美濃磯神田支店　神田區小川町

美濃磯支店　深川高ばし際

小田商店　芝區新櫻田町

伊澤商店　牛込區神樂町一丁目

伊澤支店　四谷區傳馬町一丁目



カメリヤ洗粉

あらひこ

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舗　ライオン齒磨發賣元　東京神田柳原川岸　小林富次郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭十種 百面相

巖谷小波著 宮川春汀挿畫二十種入
和製美麗全壹冊 正價金八拾五錢 郵税金八錢

本書は小波先生が多年大日本婦人教育會の爲に材料を選み趣向を凝らして得意の快舌を揮へるものを其都度親しく筆記せるものなり收むる所凡て十種中には畏多くも同會總裁閑院宮妃殿下の御傾聽を辱うし御感の御言葉を賜はれるものあり啻に演者の光榮なるのみならず本書の名譽又幾何ぞや斬新の裝釘頗る美色刷の挿畫頗る麗蓋し丁未出版界を賑はすべき稀有の珍書と云ふも可ならん、

◎發行所 日本橋區通壹 大倉書店

小間物 新着々

新橋際博品館内支店
小川町通東明館内支店
帝國五二館内支店
東京神田區□町本店
三井屋商店
電話本局二〇七六番

東京勸業博覽會第一號館小間物組合出品部出品及婦人博覽會第二號館出品即賣

乳白化粧水 レート

牛乳ノ主成分ニテ製セル

在來化粧水ハ單ニ皮膚ヲ滑カニスルモノアレドモ未ダ營養ヲ與ヘ且ツ美艶純白ニスルモノナシ獨リ乳白化粧水レートハミルクノ有效分ノミヲ精製シ濃厚ナル香氣ヲモ加ヘ(少量ニテ効多ク)皮膚ノ細胞作用ヲ活潑ニスルヲ以テ自然純白艶ニシ天然ノ光澤ト色彩トヲ與フ

定價 大瓶金五拾錢 小瓶金三拾錢

東京 大阪 平尾賛平發賣

補血良劑 ワムポール無臭肝油

補血劑として稀世の卓効を奏する新藥にして少しも惡臭を存せざるのみならず飲用に適する清快なる香氣を有するを以て婦女子も尙喜びて服用する事を得べし

東京日本橋區本町四丁目
合名會社島久商店
(電話本局特四九一 電話本局三〇一八)

ホワイト印裁縫ミシン

◎構造堅牢◎使用便利◎運轉圓滑◎外觀美麗

輸入元 東京神田今川橋際 橫濱市元濱町一丁目 古屋商店

新着荷

御婦人用 夏肩掛各種 新形帽子 リボン造花 裝飾品種々

牛込神樂坂下 朝日堂

誠實廉價

商品案内表無代送呈

商品概要 金銀時計類 眼鏡類及附屬品 寶石入指環 金銀盃 茶器類 洋食器 七寶花瓶 貴金屬美術飾品 各種

大勝堂 東京銀座通尾張町 電話新橋二二六四番

婦人科産科 榊病院

婦人科 産科 院長 醫學博士榊順次郎(毎日午前診察)
婦人科的外科 副 醫學士久保徳太郎(留學中)
婦人泌尿器生殖器病及内科一種 副 醫學士田代謙二(火木土、午後)

施療火木土、自午後一時至仝二時
麹町區三番町三十三番地(電話番町三百八十五番)

婦人科産科木村病院

◯院長 ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話新橋二二六七〇番)

産科婦人科專門

ドクトル 樋口繁次 歸朝後於本院診療に從事す

各科 診察從前の通 午前診察 午後往診

東京病院

芝愛宕町 電話新二六四 同二六二〇

外科皮膚病 泌尿生殖器花柳病科 矢ノ倉病院

電話浪花三二八〇番 日本橋區兩國矢ノ倉町 院長醫學士寺田織尾

産科婦人科專門 岩田病院

診察毎日午前 入院隨時
淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

婦人病内科診療

午前宅診
神田區錦町三丁目四番地 藤井貞

小兒科診察

特ニ乳兒ノ疾患及ビ育兒法 小兒皮膚病
獨逸新式種痘 日曜午前
拙者議久シク獨逸伯林大學ニ於テ小兒科專攻歸朝後毎日診療ニ從事ス
ドクトルデメチーネ 長井岩雄
東京日本橋區數寄屋町一(電本百八十)

◉婦人病專門 櫻井醫院

院長 櫻井克己
芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三二四

小兒病診療

宅診午前 往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 内田愼太郎
◉電話下谷七一八番

鳥山内科院

院長醫學士鳥山南壽次郎
京橋區鎗屋町十一番地 電話新橋千七百四十六番

峰内科醫院

内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトルメヂチーネ峰秀世
神田區西今川町三番地(電話本局三〇一九)

内科一般

午前宅診 午後往診 板垣亭
東京神田美土代町三丁目十九番地 電話本局貳千九百七十番

●水原産科婦人病院

○所在神田區猿樂町十二番地(電話本局千八〇九番)○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立産婆學校の設あり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各女學校御用
シホン
附屬品幷に造
花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話長浪花一六四三番
振替貯金口座四九七〇番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御添へ御申越被下度候

ラクダ石鹸

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべき「スミレ」の香料を多量に含むが故一度使用せば其香氣五日間馥郁としてかをりを失はざる一大特點を有す

定價　大形廿錢　小形十錢

東京日本橋區本石町三丁目
芳香藥種問屋　本舖　井上太兵衛

第四回新學期開始

女學講義錄

會員大募集　博覽會開會中入會金全免

●本會は下田棚橋津田諸女史の賛助に成り講師は皆斯道專門の大家也●會費最も低廉都會一ヶ月の遊學費にて卒業を了はるを得

●中央新聞曰く講述何れも平易にして親切なれば初學の女子の講習には最も可なり。●報知新聞曰く天下講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有すると斯くの如きは稀れ也●都新聞曰く講義平明にして用意親切なり

父母の膝下に在て高等女學校全科を僅に二ヶ年で修了する事が出來ます講義は文部省令に據れるは勿論更に家庭の實用に適する科目を加へ丁寧懇切に講述します●規則書申込次第直に進呈すべし●

大日本淑女學會
東京神田南甲賀町十番地

東京市日本橋區通一丁目
合名會社　**森村銀行**
電話(特)本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日歩　八厘
當座預金　同日歩　壹錢壹厘

東京市日本橋區小舟町三丁目
株式會社　**第三銀行**
電話浪花四一二番　浪花四五一番

預金利子
定期預金　六ヶ月以上　年五分
當座預金　百圓に付日歩　八厘
別口當座　同日歩　壹錢
全國へ送金　[illegible]
其他銀行一般の業務[illegible]

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目
ホーサン石鹸本舖
本舖　**松澤常吉**
（電話本局[illegible]五番）

人類界之現象　定價金壹圓廿錢　小包郵税金八錢
人と猿　定價金八拾錢　小包郵税金八錢

人類の愛情、男女愛情の要素、愛の歷史、夫婦の愛と男女の愛、老孃、未婚男子、天才と結婚、天才と愛、狂氣と愛等拾餘章に分ち最も眞面目に説述したる最近の快著也

●發行所　東京市神田區裏神保町　振替貯金口座三三七番　**光風館書店**　◎大賣捌　東京、東京堂　大阪、寶文館

再版　新刊發賣

愛之進化

文學士樋口秀雄君序　小山東助君序　文學士德谷德之助君序　文學士内田旭君著　挿畫（ダンテの夢、愛と心　人世の愛、天の愛と地の愛）

（洋裝美本全壹冊　泰西名畫四葉入　正價金五拾錢　郵税金八錢）

好評　增補十版

男女之研究

男女の起源、發達、生殖上の差異及諸現象、發生、發育、形質上及生活上の差異、男女の關係、地位等諸方面より男女を研究せるもの、家庭の讀物として好評嘖々たり。

理學博士　坪井正五郎先生序　師範學校長　遠藤正先生序
大鳥居弃三君　澤田順次郎君　共著

（第十版の紀念として增補せる性愛論は出色の文字として推賞せらる）

（洋裝美本全壹冊　色刷寫眞版挿入　正價金五拾錢　郵税金八錢）

新刊發賣

婦人論

文學博士　桑木嚴翼先生序　文學士　木村猪久次先生序
大鳥居弃三君　澤田順次郎君　共著

本書は物心兩面より婦人を研究し生理的狀態、先天的特長、心意的職能等を説示し過去、現在及び未來に於ける婦人の地位、境遇より社會の進歩に伴ふ婦人の責任等を論述したるものにして紛糾せる現時の社會に根本的解決を與ふるの新著として教育家、經世家及び父兄、學生、家庭に向つて[illegible]るべく、一本を[illegible]。

（洋裝美本全一冊　斬新挿圖貳拾餘　正價金五拾錢　郵税金八錢）

△清新なる家庭に備ふべき高潔純良の新著なり▽　附錄社會的色情衛生論

最上醬油

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印

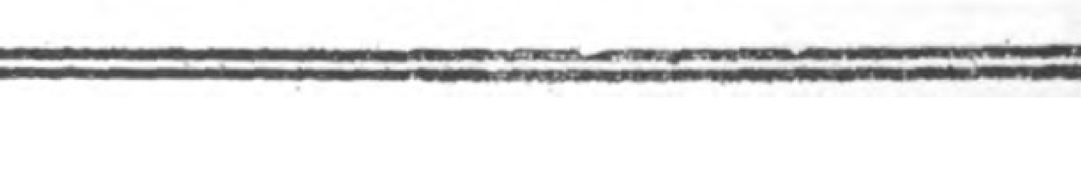
醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　**茂木七郎右衛門**　信略號（キハク）又（ハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　**中野長兵衛**　電話浪花五七七四

高等御婦人用小間物各種

美術貴金屬袋物商
東京日本橋區人形町通り
澤田治助
電話長浪花二五六九番



東京勸業博覽會　第二號館彫工會内出品

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十年六月廿日發行（毎月五日廿日二回）（定價金三錢一ヶ月六錢 郵稅不要廣告料一行金六拾錢）
發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 大久保高明　發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所　印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

洗用 ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは（拾貳ヶ入）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳ヶ入 金拾五錢　六ヶ入 金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉 ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價 最上 金七拾五錢 金貳拾錢　普通 五拾錢 六錢　參拾錢 三錢　拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
東京製ワッセル製造元 御肌洗ひこ芳香ワッセル日本一手販賣元
三友商會

◉確實 製造大販賣 御小賣
夜具 蚊帳 夏冬 ざぶとん
◉品質保險附 ◉正札引なし ◉縱覽御隨意
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局長二一〇八
市內無賃配達
不忍池畔雪見橋近傍
矢田出張店
市內無賃配達
諸官省御用　博覽會賣店
商標御注意

最上醬油元祖
上
○宮內省御用達也
○開業二百六十三年
○品質の吟味嚴重也
○風味他品に超絶す
○日本一の釀造高也
釀造元 下總銚子町 濱口合名會社（振替貯金五〇二一）

○色白く艶をだす最良之化粧石鹸（大形廿錢小形拾錢）
松澤ホーサン石鹸
○到る所に販賣す（にせ物）あり松澤ホーサン石鹸と御買求を乞ふ
東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舖
松澤常吉
（振替貯金四四四七番）

東京勸業博覽會第二號館出品併不忍池雪見橋際賣店並に婦人博覽會第二館出品

季節向新製品の設備

本店曩に東京勸業博覽會壹號館內小間物商組合の中へ御婦人頭飾品裝身具携帶品等を標本として出品仕候處意外の御好評を博し候事平素着實なる本店の營業振に依るとは云へ全く大方の厚き御引立の致す處と深く感佩仕候猶新緣の候と相成候へば今回特に意匠を凝らし季節向の御用品として瀟洒なる圖案の御髮飾を始め半襟帶締等の裝身具及び御携帶品各種を新製の上悉く本店に設備仕候へば博覽會御見物又は御散步の途次必ず御來店の榮を賜はり度く新製品として此の他にも御土產用紀念品各種取り揃へ有之候

明治四十年五月

店主 松田幸次郎 敬白

東京市京橋區尾張町
白牡丹本店
電話新橋五五一番

大日本女學會

會員募集

本會は小學卒業後高等女學校に入學し難き女子達に講義錄に依り女子必須の諸學科を自修せしむ本會は伏見若宮妃殿下を總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として十三年來女學普及に努む會則希望者はハガキ又は電話にて請求あれ
東京麹町區下二番町三十七番地
電話番町一三三〇番
大日本女學會

◎婦人科 ◎小兒科 專門 午前宅診 午後往診
東京市麹町區飯田町四丁目九番地
女醫 鷲山彌生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

○評議員會　本月廿六日に開かるべき評議員會は去十七日（第三月曜日）に繰上げたり

○評議員會　但夏季定例の評議員會は暑氣に打向ふ爲め今回限り休會とし秋季開會の時日は追て通知の事となれり

○評議員會　六月十七日本部に於て開會せる同會は主事打合會協定事項中重もなる事項に對し審議する處あり尚ほ其他會務上の緊要なる議事をも審議せり當日出席の役員は左の如し

會長岩倉久子　[illegible]　會計監督佐藤正の諸氏

○理事顧問會開會の狀況　本會理事顧問會は、豫定の如く六月十二日午前九時より本部樓上に於て開會せり出席者は岩倉會長始め理事近衞、毛利、岡部、監事九條、三井の各夫人、並に二條、伊東、谷、岡部、松本、清浦各顧問出席左の件を審議せり

一、過般總會の際各支部主事會議に於て協定したる結果及軍人孤兒敎養の件其他要件

午後も引續き開議し同三時過散會す

○恩給の增加に關する手續　三十七八年戰役に從ひ負傷して廢兵となりしものは既に免除恩給及び增加恩給の下賜ありて各其恩惠に浴し居るとは疑なき事實なれども昨三十九年四月以前に於て下賜されたる恩給證書に據るものは三十九年三月法律第二十號軍人恩給法中增加恩給の金額增加せられ三年間に出願する者は改正の金額を給與せらるる事となれり然るに廢兵諸氏にして此改正あるに心付かずして改訂の出願を爲せしもの少きが如し若し此儘にして三ケ年の期限を經過せば可惜增加し得らるべき恩給を舊額の儘に差置き折角の恩惠に浴せざるに至るべし郡市町村其筋の人々は其管內の廢兵にして未だ改訂の出願を爲さざるものには注意を與へて此恩浴を逸せざるやう配意ありたきものなり

○山形支部第二回總會彙報

愛國婦人會山形支部第二回總會は既報の如く五月廿八日午前十時千歲公園に於て開會せり來會者は會員四千五百餘人遺族廢兵の參列せる者九百五十名ありたり午前十時三十分總裁閑院宮妃殿下は嚠喨たる君が代の吹奏中に式場に御台臨あらせられ馬淵支部長開會の旨を告げ併せて卅七八年の戰役に關し本會に賜はりたる御令旨を恭しく捧讀し該支部職員名簿及會員表を捧呈す總裁殿下は左の御諭旨を賜はる

御諭旨

愛國婦人會山形支部は愈々會員の增加を計り會務亦漸く整ひ茲に其第二回總會の式を擧ぐるに至れるは智惠子の深く喜ぶ處也今や戰役の後を受け本會の責任益々重く事業の前途尙遼遠なり會員諸子一層奮勵して同心協力以て本會の目的を達せられむとを望む

次に馬淵支部長は左の奉答文を朗讀す

本日愛國婦人會山形支部第二回總會を開くに方り畏くも　總裁殿下の御台臨を辱うし特に優渥なる御諭旨を賜はる當支部の光榮何物か之に加へん今や戰役の後を承けて各種の經營切なると共に本會の責務も亦益重からむとす自今一同心を一にし力を協せて會務を擴張し以て偏へに御諭旨に副へ奉らむことを期す會員一同に代り謹て奉答す

續いて岩倉會長の祝詞馬淵支部顧問の祝詞朗讀あり終て有功章の御親授及廢兵遺族に恩賜あられて式を終れり

○富山支部遊說日記（二）　富樫眞喜子

四月二十九日午後三時より射水郡新湊町曼陀羅寺に於て開會支部よりは加藤評議員岡田幹事橋本事務員仝幹事部よりは長谷川幹事土山評議員分區委員部よりは南島さく外三十名の幹事石黑中島の兩事務員曾谷町長小海島役其他當町有志數名出席斡旋せられたり來會者は千餘名滿堂立錐の餘地なし例の如く講話五時閉會せり此日開會に先ち故奥村刀自の追弔會を營まれたり當夜は此の寺院に宿泊せり

四月三十日午前八時仝寺出發幹事諸氏に送られ仝郡小杉町に赴きたり支部よりは永井副支部長永野評議員岡田幹事五嶋橋本兩事務員幹事部よりは長谷川幹事高岡市幹事部より細幹事出席せられ午後三時より金體寺に於て開會聽衆約七百餘名例の如く講話をなし五時半閉會せり六時十二分發の列車にて一同富山へ歸へりたり

五月一日午前九時半富山發の列車にて支部幹事疋田杉村兩氏射水郡部幹事長谷川氏橋本事務員同行西礪波郡石動町に赴きたり停車場へは幹事宮のさ子を初め十數名の幹事出迎はる一行は乘光寺に着す廣瀨郡長并警署長出張せらる午後二時より開會聽衆約三百五十餘名例の如く講話し五時閉會せり

愛國婦人會會員女子人口比較表（明治四十年五月末日現在）

支部名	特別會員	通常會員	計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
石川	一、九九〇	一九、三九六	二一、三八六	三八五、四七八	五、五五	六一
山口	八四六	二五、九一九	二六、七六五	五〇六、九二〇	五、二八	八
山形	九五六	二一、五一三	二二、四六九	四三九、六一八	五、一一	四八
愛知	一、五〇八	三六、三五一	三七、八五九	八六八、五三八	四、三六	六
岡山	一、〇八三	二二、五六〇	二三、六四三	五七七、二七二	四、一〇	一二
兵庫	二、二六五	三四、〇〇五	三六、二七〇	八九三、七三四	四、〇六	一七
福岡	二、七三八	二八、四三五	三一、一七三	七七二、七四三	四、〇三	一〇
北海道及函館	三、二二四	一五、〇〇八	一八、二三二	五〇七、六三八	三、五九	五七
富山	九七〇	一二、二一五	一三、一八五	三八四、九八二	三、四三	—
熊本	二、八四四	一七、四三四	二〇、二七八	六一〇、四一一	三、三二	一二
愛媛	五一一	一六、三七四	一六、八八五	五一一、三九六	三、三〇	三九
京都	二、二七七	一四、五一八	一六、七九五	五二一、三九五	三、二二	一九
秋田	八三九	一一、九一六	一二、七五五	四〇三、九四六	三、一六	—
香川	八二〇	一〇、〇一八	一〇、八三八	三四七、八九〇	三、一二	—
島根	三四三	一〇、五三五	一〇、八七八	三六二、六三五	三、〇〇	—
群馬	一、五〇六	一二、〇一〇	一三、五一六	四五四、一七一	二、九八	二二三
青森	一、一四九	八、〇〇九	九、一五八	三二二、二一一	二、八四	七
神奈川	一、五六〇	一二、四七五	一四、〇三五	四九九、六二三	二、八一	—
佐賀	八九三	八、三八一	九、二七四	三二七、六七八	二、八〇	二
長崎	三、二七一	一〇、三六六	一三、六三七	四八九、三九〇	二、七九	一
宮崎	二八〇	六、五〇三	六、七八三	二四七、二五二	二、七四	一八
福井	八四八	七、九二二	八、七七〇	三二〇、一五四	二、七四	一
宮城	一、四七二	一〇、五五八	一二、〇三〇	四四五、〇四七	二、七〇	一一
大分	八五二	一〇、四〇五	一一、二五七	四三〇、〇二五	二、六二	三
栃木	八二三	一〇、一六八	一〇、九九一	四五〇、一二六	二、四四	七
三重	四〇九	一一、七六二	一二、一七一	五二二、〇四三	二、三三	四
奈良	二八九	六、一八二	六、四七一	二七八、一九一	二、三三	—
大阪	三、一九七	一五、三五二	一八、五四九	八六三、四〇五	二、一九	—
德島	三五二	七、三八二	七、七三六	三五二、六〇八	二、一九	五
岩手	六七八	七、三七四	八、〇五二	三六九、[illegible]七八	二、一八	一
高知	二五七	六、四二四	六、六八一	三一八、二四五	二、一〇	—
福島	一、二四八	一〇、三一四	一一、五六二	五八二、一五[illegible]	一、九九	一
静岡	六六六	一一、八〇〇	一二、四六六	六四〇、八四八	一、九[illegible]	一二
東京	七、八六一	一三、七六八	二一、六二九	一、一五七、五一四	一、八七	四八
滋賀	四七六	六、二四六	六、七二二	三六四、六八八	一、八四	—
千葉	一、〇〇九	一〇、二六八	一一、二七三	六五六、七八二	一、七二	二七
廣島	一、四五二	一〇、七六六	一二、二一八	七四六、六五五	一、六四	二
山梨	四〇二	四、〇〇九	四、四一一	二七二、一四八	一、六二	—
茨城	五四二	八、三九五	八、九三七	六〇四、四一三	一、四九	一
埼玉	三五二	六、九九九	七、三五一	六二七、五五六	一、一七	二七
鹿兒島	一、〇八六	五、八五九	六、九四五	五九四、九八五	一、一七	八
新潟	一、〇〇一	九、〇三二	一〇、〇三三	八九九、〇二一	一、一二	五
岐阜	七八八	四、五八七	五、三七五	五〇二、六五八	一、〇七	一
和歌山	二九一	三、四一九	三、七一〇	三五〇、〇六九	一、〇六	一
鳥取	一六六	一、九二四	二、〇九〇	二一七、五四一	〇、九六	四
長野	五九一	四、九六三	五、五五四	六七四、五一五	〇、八二	四
臺灣	一、三〇〇	一〇、〇八四	一一、三八四	一、四〇二、七七一	〇、八一	二一
沖縄	三四一	一、四九二	一、八三三	二三九、二二七	〇、七七	—
海外	七四八	二、一七三	二、九二一	—	—	二、七一三
計	六一、三六六	五七三、四七〇	六三四、八三六	二五、三三一、〇四〇	二、五一	三、四四七

備考　支部ノ配列ハ會員比例數ノ最モ多キモノヨリ順次配列ス
　北海道及函館ノ兩支部會員數ハ合算シテ掲載セリ而シテ函館支部會員數ハ特別五百五人通常千六百七十四人ニシテ他ハ北海道支部會員數ナリ

五月二日午前九時旅館出發諸幹事に見送られ福光町に赴きたり支部よりは服部評議員嶋田幹事出張せらる十二時着福光別院に至る數名の幹事の出迎を受けたり午後二時より開會聽衆約五百餘名五時閉會せり夫より汽車にて高岡市へ赴き六時半着郡部長初め十數名の役員の出迎を受け一行は景架橋に投ず

五月三日午後一時より仝市專稱寺にて故奥村五百子刀自の追弔會を兼れ講話會を開催せり郷市長初め各役員有志其他來賓十數名列席一般聽衆約千五百餘名滿場立錐の餘地なし最初壇廳に僧侶の讀經あり夫より講話に移り五時閉會せり非常の盛會を極めたり

山形支部東川田村遊說日記　野中綱知

四月十四日　午後九時十分上野發にて山形支部に向ふ

四月十五日　零時二十分著停車場に出迎の戶澤評議員佐柳岩本兩副長幹事兩三名と共に杉山旅館に投ず當日小倉事務員上の山迄出迎へり

四月十六日　午前九時十二分山形發下り列車にて東田川郡に向ふ前日來同幹事部より山形迄出迎の後藤郡書記支部より見送の小倉事務員と共に新莊に下車小倉事務員と袂別後藤氏と共に二里半の道程を腕車を驅り元合海の津迄行是より五里半最上川河船にて下り午後六時清川に着矢口旅館に投宿當日幹事部より仝所まで出迎の西川加賀山兩幹事西川一課長と共に同宿せり仝地は昨今雪解け之に加ふるに當日は暴風雨にて俄かに增水船の動搖甚しく本縣中當地方は殊に交通不便にて清川より幹事部まで三里餘なり

四月十七日　午前八時三十分一行腕車を驅り幹事部に向ふ同十時三十分著阿部旅館に投ず零時三十分腕車にて入舞島村に向ふ一時着二時永慶寺に於て開會聽衆四百餘名西川郡書記閉會の辭を述べ次に講話四時閉會後毛呂西川兩幹事西川郡書記と共に鈴木村長の案內にて遺族を慰問し戰死者の靈位を拜し五時阿部旅館に歸着せり

四月十八日　午前毛呂西川兩幹事西川郡書記と共に加藤村長の案內にて幹事部附近の遺族を慰問し戰死者の靈位を拜し零時三十分毛呂加賀山兩幹事西川郡書記毛呂郡視學山本敎育會幹事と共に渡前村に向ふ二時寺院に於て開會聽衆貳百五十餘名西川郡書記閉會の辭を述べ次に講話四時閉會後翌日巡回の都合に依り西川郡書記と共に西田川郡鶴岡町蘇子旅館に投宿せり

四月十九日　午前九時西川加賀山兩幹事西川酒井兩郡書記と共に腕車を驅り黄金村に向ふ仝十時小學校に於て開會聽衆三百餘名西川氏開會の辭を陳べ次に講話十二時閉會後直ちに腕車にて小漆村に向ふ午後二時小學校に於て開會聽衆約壹千名西川氏開會の辭を陳べ終て講話四時閉會後遺族等を村役場控室に集め坐談を爲し了て五十嵐村長宅に於て晩餐の饗應を受け六時腕車にて鶴岡町蘇子旅館に引返せり因に記す五十嵐氏は當地方の資産家にて公共心に富み他村に比し會員多數なり

四月廿日　午前九時三十分西川酒井兩幹事西川郡書記と共に腕車にて齋村に向ふ仝十時小學校に於て開會聽衆二百餘名西川郡書記開會の辭を陳べ了て講話零時閉會後直ちに腕車にて廣瀨村に向ふ二時寺院に於て開會聽衆四百餘名鶴原顧問閉會の辭を陳べ了て講話四時閉會後腕車にて鶴岡町蘇子旅館に引返せり

○本部事務員慰勞會　去十五日府下目黑なる岩倉會長の別莊を借用し本部總會事務員慰勞會を開きたり佐藤少將を始め事務員十數名相會し名園の裏に十分の歡を竭して散會したり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各地支部狀況

●福井支部坂井郡幹事部總會の狀況

去る五月廿四日より三十日まで、郡內四ヶ所に會員總會を開催せり。其概況は各所共寺院を以て會場に充て嚴肅なる儀式の下に擧行し左の告辭等を以て式を了り續いて故奧村刀自に對する奉告式あり並木幹事部長は左の奉告文を朗讀し了て富樫遊說員の講話あり。又來賓及會員には茶菓を饗し且つ丁重なる紀念品を贈與せり

告辭

愛國婦人會坂井郡幹事部は今日しも爰に第一回會員總會を開かるゝこととはなりぬ惟ふに當幹事部會員の數は年を逐ふて增加せしも昨年十二月末に於ける會員は八百八十餘名にして會勢未た振へりと云ふにあらさりしか當時本部よりわは櫻風喜子君の派出あり處々に熱誠なる講演を開かれしと職員か日夜眠食を忘れて趣旨の普及に努められしとにより同情に厚き諸姉は皆進んで奮ひ起され今や會員の總數二千八百〇二名とはなりぬ斯く僅の間に三倍以上にも增し郡內郡市幹事部の第一位を占むるの盛況を見るに至りしは誠に慶喜に堪へさるなり抑愛國婦人會は全國に亘れる我國唯一の婦人大團體にして其目的とする處は軍人の遺族を救護し傷兵を慰藉するにあり左れば此主旨に從ひ我國空前の大事たりし三十七八年の戰役にあたりては皆心を一にし力を協せて後援の業に努め奮しき行動ありしことも今更めて之を云はじ唯本會あるによりて婦人か軍國の務に與ることの幸榮を得たるは忘る可からさる事なりとす抑其秘なりては長くも　皇后陛下より有かたき御令旨を下し賜り其の名譽は廣く外國までも輝き渡りぬされば我等同胞は倍々進みて御國のために末永く本會の發達に盡さむことこそ國民の本分なるへけれまして我支部內には備さに戰場の困苦を嘗め戰死病沒せられたる軍人千八百七十餘名の多き數にあればいかで此遺族廢兵の慰問救恤に努めすして可なるへき幸に當幹事部の如き斯る盛況を呈せるに至りしは洵に喜はしき極みなれとも猶これに安むせす愈進みて擴張を圖り本會の基礎を固め國母陛下の　懿旨に副ひ奉らむことを偏に望みはへるになむ聊思ひの程を述へて告辭とす

愛國婦人會福井支部長　坂本釤子

答辭

本日を以て當幹事部の第一回會員總會を開くに方り阪本支部長同夫人には親しく御臨場を給はり殊に厚き御辭しを辱ふし當部の光榮又何ものか之れに加へむ抑々當幹事部を設けられしは明治三十六年にして早くも玆に五年の昔しとはなりぬ顧みれは當時會員は僅かに指を屈する迄なりしか其年の暮故奧村刀自の遊說を煩はすことを得て忽地にして八百餘名に上りしも尋て大戰役起りて只管後援の事にのみ努めつゝありしか既に平和克復せられて　國我戰勝の光りは廣く世界に輝き渡り凱旋の將士は親子相見て其喜びを俱にし一家團欒の樂みを享くるに至りしも畢り名譽の死を遂けられし軍人の遺族と幾多廢兵の中には此喜びを享くることを得すして深く同情を寄すべき境遇に在るもの亦甚た多かるべし此時に當りて益々本會趣旨の普及を圖るへき必要を感じたりしも要は先つ會員を增加するに在れは昨年末より再び會員增募の計畫を爲すに際し幸ひにも亦富樫女史の講演を請ふことを得て不肖花子等日夜勤募の事に從ひしに同情に厚き部內町村の婦人たち皆進んで入會せられしかは今や二千八百餘名の會員とはなりぬ是猶運の然らしむるに依るへきも要するに支部長令夫人の御指導宜しきと富樫女史の熱心なる御遊說に依るに外ならす今や本會の趣旨日を逐ふて普及し目的の事業亦漸く實施せられむとするの時にして前途誠に遼遠不肖花子等今より一層心を一にし力を協はせ倍々進みて業務の擴張を圖り以て御高諭に副はむことを期す聊か鄙辭をつられて答辭とす

坂井郡幹事部長　並木花子

祝辭

愛國婦人會福井支部坂井郡幹事部は會運年を逐ふて隆盛に赴き爰に本日を以て第一回會員總會を開くに方り坂本支部長令夫人松平侯爵令夫人の臨場を辱ふするを得たるは最も光榮の至りにして欣喜に堪へさる所なり惟ふに明治三十七八年の戰役は空前の大擧を以て終りを告け帝國の威武四海に宣揚せられたりと雖も內に顧みれは從軍將士の死傷亦誠に少しとせす爾來之が遺族廢兵救護の業務は益々擴張を要するの秋に際し部內町村姉妹諸氏の入會日に月に多きを加へ當部今日の盛況を見るに至りたるは是入會姉妹諸氏か熱誠愛國の美德に富まるゝに依るや勿論なりと雖とも抑も亦支部當局者各位の指導其宜きを得たると當部役員諸氏の鋭意勵精に依るにあらすむは焉ぞ能く此に至るを得むや洵に本會の爲め之を祝すると同時に諸氏の爲に之を謝せすむはあらす冀くは諸氏內外呼應協心戮力愈々奮ひ益々力め以て會務の發展を期し本日の盛典に副はれん事を一言之を祝辭とす

坂井郡幹事部顧問　並木立瀾

奉告文

今日を以て愛國婦人會當幹事部の第一回總會を開くに方り爰に謹みて故奧村五百子刀自の影前に告くる所あらんとす

想ひ起せば明治三十六年は我幹事部開始の年にして當時會員僅かに指を屈する迄なりしに其年の暮刀自の來臨を機とし郡內四ヶ所を撰ひて講話か請ひしに刀自か熱誠なる講話は誠に一般婦人の眠りを覺して能く愛國の心を誘發しりたしかは本會の趣旨に贊同して入會するもの忽地にして八百餘名に及ひしも未た以て足れりとすへきにあらす然かはあれと折しも大戰役に際して老も若きも皆奉公の道に盡し後援の事に從ひ日も亦足らす在りしを以て匆忙に打過きつゝ二年を經過したりしか世にも稀なる大戰役も四方に輝く名譽の下に我國全勝の功を奏し出征の將士は功名高く凱旋し一家團欒の樂を享くることを得たりと雖も獨り殉難將士の遺族と勇敢戰傷の廢兵とに至りては然らす或は頭に霜を戴きて寒に凍ゆる老人あるへく弱子を懷にして飢に泣く寡女もあるべし或は又戰傷のため不具者となり廢兵の末路を歎するものもあらむ洵に悲慘の極みにあらすや思ふて此に至れは血あり淚あるもの爭てか之を傍觀するに忍びむや

是に於て本會の事業益々擴張すへきの必要を感し昨年末より再び會員の增募を計畫したりしか幸ひに富樫女史の遊說をも請ふことを得て不肖花子等又日夜勤募の事に從ひしに同情に厚き各町村の婦人たち等快よく入會を諾せられ今や部內の會員は二千八百名を算するの盛況に進みたり是れ刀自が曩に啓發の勞を取られし賜ものに外ならず嗚呼刀自は本會を主唱せられ未だ僅かに數年を出すして早くも既に六十有餘萬の會員を得られし其熱誠と偉大の功績とは夙に聞知して欽慕の念禁する能はす實ては女子たる天職の幾分をも盡し以て刀自が再遊を請はむと欲したりしに今や已に永眠に就かれて復た再遊を求むるに由なし誠に遺憾とも遺憾の極みにこそ

依て玆に本日總會を開くに方り富樫女史の臨席を請ひ謹みて當部の經歷及成果を影前に告け併せて不肖花子の微衷を報告す

明治四十年五月廿六日

坂井郡幹事部長　並木花子

●宮城縣志田郡幹事部總會狀況

五月十二日午前九時小學校內に於て總會を開く出席の會員總數四百餘名にして嚴肅なる儀式の內に午後四時閉會せり後ち故奧村五百子刀自の追弔法會を執行せり其の追弔文等左の如し

奧村五百子追弔文

本日愛國婦人會志田郡幹事部總會を擧行するに方り爰に會員諸子と共に本會の主唱者たる故奧村五百子刀自に對し哀悼の意を表す扨て本會創立の始めより萬斛の熱誠を以て本會の爲め貢獻せられたる故奧村五百子刀自は九州の肥前に生れ彼の日淸戰爭に際し眇乎たる一女子の身を以て支那に渡り北淸事變のとき再び支那に往き親しく彼の狀態と戰爭の模樣とを視察し當時謂らく豈男子のみ戰死病者の看護をなすを得べけん獨り男子のみ後援者となるものにあらんやと大悟徹底せられたるなり又た日露戰爭の時に於ても滿韓に往かれ彼の東奔西走金鐵の如き精神を以て遂に本會を組織せられ滿州の地は寒肌を透ふし男金石を鑠すと云ふ地を跋涉し之れ又親しく時運の趨勢と斯業發展上の考案を畫し歸られしか惜い微病に罹り遂に秀俊なる風姿に接するを得ざるに至りしなり謹て爰に滿場諸子と共に哀悼の意を表す

明治四十年五月十二日

志田郡幹事部顧問　岩淵俊夫

支部長の祝詞

當幹事部は會旨の普及と事務の進行とに努められたる結果頓に會員も增加し各幹事部を通して二三の間に發展し其成績大に見るへきものあり今爰に幹事部總會を開くに當り盛業の多忙なるにも拘らす多數の會員參會せられたるは畢竟諸氏の熱誠に因るものにして眞洲子等の欣謝に堪へざる所なり希くは將來一層奮勵し益優等の地位に進まれんことを一言以て祝詞とす

明治四十年五月十二日

宮城支部長　龜井眞洲子

幹事部長の答詞

本日愛國婦人會志田郡幹事部總會を開くに當り宮城支部副長石橋夫人西村夫人愛國婦人會遊說員野中女史の親しく臨場を忝うしたるは部員一同の深く光榮とする所なり本會今や國家事業として日に月に發展の域に進みたるは一は世運の然らしむるところなるへしと雖抑夫人諸子か熱誠を以て御盡力の効果によらずんばあらす部員等亦其意を體し和衷協力今後益本會の擴張に努めんことを期す一言蕪辭を述へ遠來の御勤勞を感謝す

明治四十年五月十二日

幹事部長　岩淵つな子

●福岡支部

鞍手郡內の本會員は從來他郡市に比し不成績なりしも客年來戶田郡長熱心に奬勵せし結果昨今各町村とも入會者多數に上り夫々發會式を擧げつゝあり直方町にありては郡內にて最も不成績なりしも是又昨今入會者多數に達し殆ど豫定數に近きたれば遠からず發會式を擧行する筈なり

●富山支部

に於ては富山授產場に裁縫部を左の主意及方法により增設せり

主意

本事業增設の主意は本會の趣旨に基き戰死軍人の遺族及廢兵家族をして之れが技術を習得せしめ可成其收得を多額にし長へに其生計を安んせしむると共に本會々員にして苟も一家の主婦若くは將來の主婦たらんとする者の爲めに自ら勞し自ら營み婦人の本分を盡し其家庭に於ける時間と勞力とを經濟的に利用し且時勢に伴へる衣服の製作を修業せしむるを以て目的とす

施行方法

一、裁縫は專ら器械縫としシンガー商會の製作に成る最新式の手ミシン及足ミシンを使用する者とす

一、本業に從事すべきは者左の資格あるものに限る

(イ)　戰病死軍人の遺族若くは廢兵家族にして年齡十五以上五十才以下の女子に限る

(ロ)　本會々員にして年齡十五才以上五十才以下の者

一、專屬教師壹名を聘用し教授の任に當らしむ

一、增設に伴ふ本年中の經費及其支出方左の如し

經費

一金貳百圓

本經費は支部職員の寄附金及作業より生する收益金を以て充る豫定

一、事業着手順序は本縣活動の一方扶及婦人社會行動の模範として先づ支部職員之を傳習し然る後會員に傳習せしめ相互協力して實際の需用に應すること

一、本業は本年六月一日より開始し八月末日までに職員の傳習を了へ九月一日より十月三十日までを會員の傳習期とし十二月一日より遍く實際の需用に應するものとす但傳習期間は時機により變更することあるべし

●韓國委員本部

駐箚軍人及病兵の慰問救護部の設置軍人及會員の娛樂に供する爲南山に面せる京城本願寺境內一圓に庭園を設備すると假事務所の建築其他管內各委員部の擴張獎勵資金及基金をも得る爲演藝會を開催するとなり去五月十四十五兩日間京城壽座に於て開催したるが本部及委員部役員は總て委員となりて斡旋盡力に務めたる結果二日間にては一般觀客者を滿足せしむる能はざる程の盛況を呈したるに依り十六日一日だけ日延することとなり開催當日の如きは伊藤統監長谷川司令官以下各國領事韓國大官も出席せられ十五十六兩日も非常の盛況にて豫定の演奏を終りたるが其結果は伊藤統監の寄附金壹百圓と合せ壹千七拾餘圓の純益金を得たりと因に該委員本部主事大楠次郎氏は目下上京滯在中にて時々本會へ出頭し事業擴張上に付調査中なり

●愛知縣支部

愛知縣知多郡半田町に於ては愛國婦人會員發起して五月廿六日午前十時より同町光照院に於て故正七位奧村五百子法名釋眞道法尼の爲めに追弔法會を營みたり來會者三百有餘名席上本多善明氏野中女史の談話あり各々滿足の聽衆に非常の感動を與へ午後五時に至り閉會を告けたり當日總代として本多ゆき子女史左の祭詞を朗讀せり

祭詞

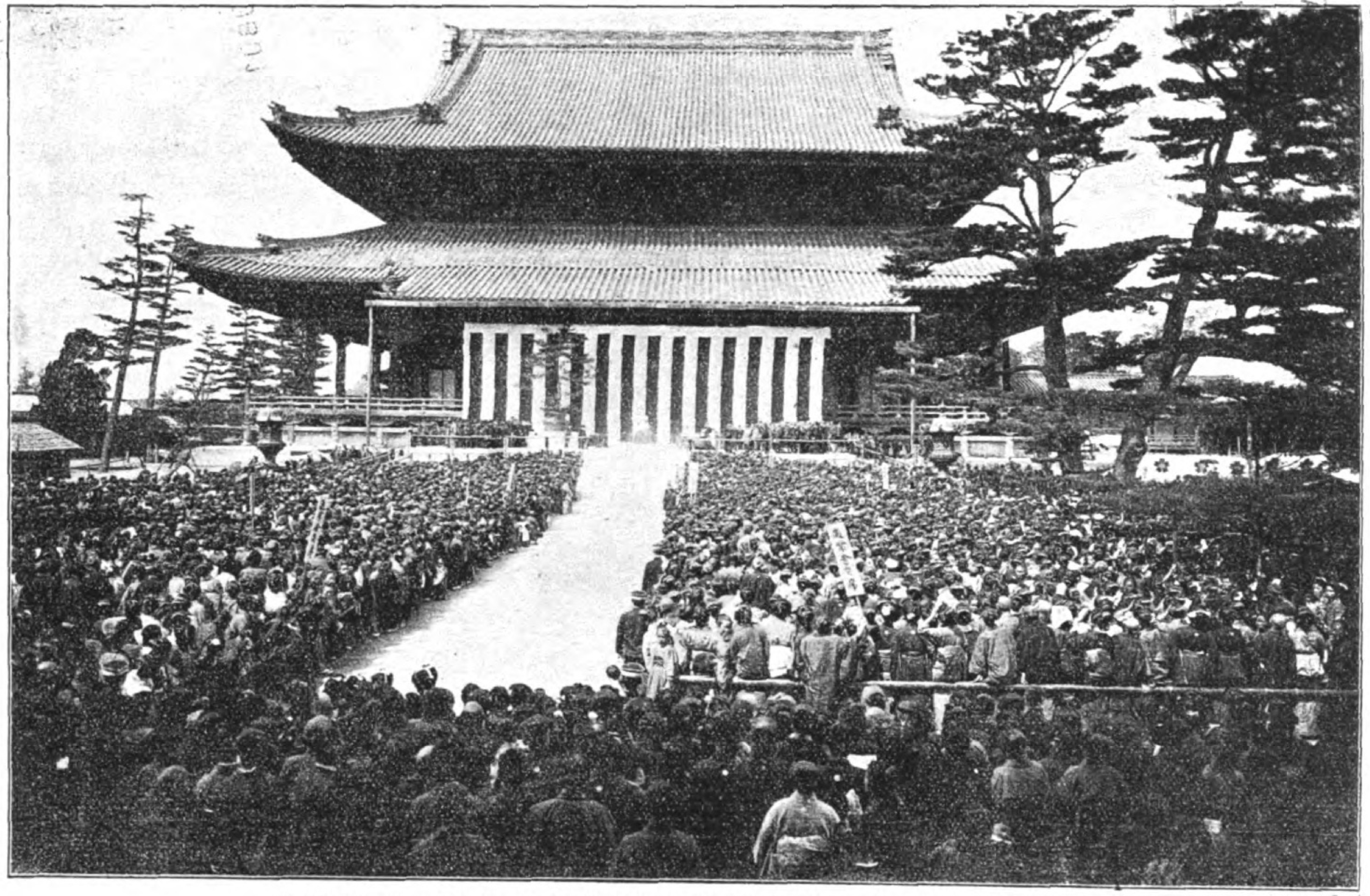
明治四十年、五月二十六日、爰に、祭禮を設けて、恭しく、故、正七位奧村五百子、法名釋尼眞道、女史の靈を祭る、女史は、眞宗大谷派の寺院に生れ、篤く佛法を信し、宗祖の遺訓たる、朝家の御爲め、國民の爲め、御念佛申すべしとの、言葉を守り、實踐躬行力を國事に盡し給ひしこと、太た多かる中に、愛國婦人會の主唱の如き、亦一の尤なる者といふべきか、妾等幸に會員の末に連なるの光榮を得て、女史の淑德を慕ふの念、いとも切なり、依て、報恩の微志を表せん爲め、會員相集り、玆に追弔の法會を營み、尊靈を慰め奉る幸に之を饗け給へ、謹みて白す

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百三十號

明治四十年六月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）



名古屋市本願寺別院に於ける愛國婦人會愛知支部總會

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　大久保高明　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

第十四號

愛國婦人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN